

北九州市立自然史・歴史博物館  
(北九州市立いのちのたび博物館)  
年報

令和3年度



特別展「博物館のお正月 2022～開館 20 周年 Year の幕開け～」虎の記念撮影スポット

## ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は、平成14（2002）年11月3日に開館し、令和3（2021）年は19年目に、また令和4（2022）年は、開館20周年を迎える記念すべき年にあたります。

令和3年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が色濃く残り、特別展のみの開館を含む、2度の休館を経験しました。他方、新型コロナワクチン接種が進む中、感染症の流行状況や社会情勢を見据えて、制限緩和を含めた感染症対策を議論し、安全・安心を大前提とした、より快適な博物館の利用について検討を進めてきました。

本年度は、幸い、開館20周年 Year の幕開けを記念した「博物館のお正月展示2022」を含む5回の特別展を実施できました。また昨年度を上回る、年間241,736人の来館者をお迎えすることができました。加えて、開館20年目を皆様とお祝いするためのイベントや博物館をさらに魅力的なものとするための展示リニューアルの検討も開始しました。

近年、博物館に求められる役割は多様化しています。地域の他の施設や関係機関との連携強化を図りながら、教育、学術及び文化の振興を図るのみならず、文化資源に関する体験活動や文化観光などを通し、地域活力の向上に対する貢献も期待されています。博物館が所在する八幡東区の東田ミュージアム地区は、スペース LABO（北九州市科学館）の開館など、大きく様変わりをする事が予想されます。

20周年記念を迎えるにあたり、地域の一員として、さらに、求められる博物館の役割を果たすべく、職員一同、引き続き、精進してまいります。また、国際的にも評価が得られる素晴らしい博物館になるよう、研究活動や情報発信に努めてまいりたいと考えております。

皆様には、引き続き、さらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

令和4年8月

北九州市立自然史・歴史博物館  
館長 伊澤 雅子

# 北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

## <理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

## <方向性>

知的アクセス権を保障する博物館...知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館...将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館...社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

# 目次

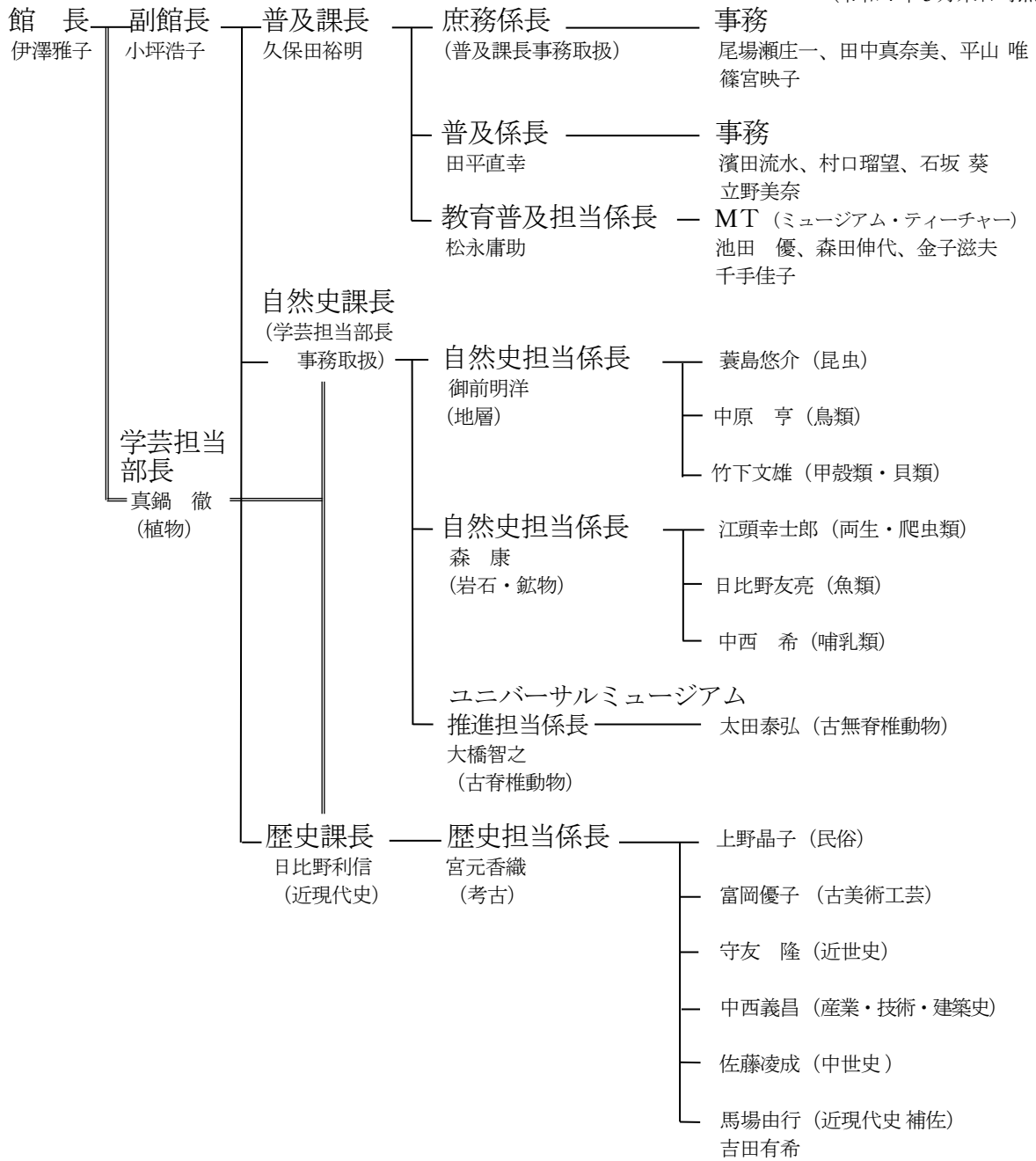
ごあいさつ

	頁
1. 組織・運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 博物館評価.....	3
4. 令和3年度予算.....	4
5. 施設概要.....	5
6. 沿革.....	6
7. 入館者状況.....	10
8. 視察受け入れ状況.....	11
9. 広報・報道実績.....	12
10. 新型コロナウイルス感染症対策.....	14
11. 特別展.....	16
12. 企画展・その他展示.....	24
13. その他の事業.....	36
14. 教育普及活動.....	39
15. 博物館ボランティア活動.....	47
16. 自然史友の会の活動.....	48
17. 歴史友の会の活動.....	49
18. 資料の収集保存状況.....	50
19. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）.....	53
20. 資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	55
21. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	57
22. 研究業績.....	59
23. 博物館刊行物.....	66

# 1. 組織・運営体制

## (1) 令和3年度組織

(令和4年3月末日時点)



## (2) 名誉館員

藤丸詔八郎 (2005.4.1) 戸来義臣 (2007.4.1) 税田昭徳 (2007.4.1) 藤井厚志 (2008.4.1)  
 岡崎美彦 (2010.4.1) 永尾正剛 (2011.4.1) 有川宜博 (2012.3.1) 上田恭一郎 (2013.4.1)  
 伊藤明夫 (2015.4.1) 山根明弘 (2016.4.1) 山家桂一 (2018.4.1) 藪本美孝 (2018.4.1)  
 下村通誉 (2018.4.1) 武石全慈 (2018.4.1) 馬場 稔 (2019.4.1) 松井和幸 (2019.4.1)

※ 括弧内は、就任日

## 2. 博物館協議会

### (1) 博物館協議会委員（任期 令和3年9月1日～令和5年8月31日）

委員は五十音順

会 長	阿部芳久	九州大学大学院比較社会文化研究院教授
副会長	岩松文代	北九州市立大学文学部教授
委 員	井上龍子	八幡駅前開発株式会社代表取締役社長
委 員	緒方 泉	九州産業大学地域共創学部教授（大学美術館館長）
委 員	川津博司	北九州市立浅川中学校校長
委 員	杉山未菜子	福岡市経済観光文化局博物館運営課長
委 員	染川香澄	ハンズオン プランニング代表
委 員	富田幸光	国立科学博物館名誉研究員
委 員	針尾泰久	北九州市立赤坂小学校校長
委 員	三島美佐子	九州大学総合研究博物館教授
委 員	吉田涼香	北九州市立大学学生

### (2) 開催日

令和3年9月8日（水）13:30～16:00 Webによるオンライン形式

### (3) 内容

- 1) 令和2年度事業実績について
- 2) 令和2年度博物館評価について
- 3) 令和3年度事業計画について
- 4) 20周年記念事業について
- 5) その他（意見交換）

※博物館協議会の議事は当館のホームページ（以下参照）でご覧いただけます。

<https://www.kmnh.jp/info/conference/>

### 3. 博物館評価

#### (1) 博物館評価の概要

博物館法第9条では、「博物館は、当該博物館の運営状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」と定められている。

当館においては、令和元年9月に「北九州市立自然史・歴史博物館自己評価および外部評価実施要領」を定め、令和2年度（令和元年度事業を対象）から実施した。

評価方法については、評価項目ごとに博物館が自己評価を行った後、博物館協議会による外部評価を実施・確定した。外部評価の実施に際しては、博物館協議会から会長を含む3名の外部評価小委員会を選出し、小委員会が博物館からヒアリングを行い、原案を作成した。

その後開催した博物館協議会で評価内容を審議し、必要な修正を行い、外部評価を確定した。

#### (2) 令和2年度評価内容

1 資料収集・保管活動	自己評価 C	外部評価 B	
2 調査研究活動	自己評価 B	外部評価 A	
3 展示活動	自己評価 B	外部評価 A	
4 教育普及活動	自己評価－	外部評価－	※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う諸制限により評価対象外とした
5 広報・情報発信活動	自己評価 B	外部評価 B	
6 市民との連携	自己評価 B	外部評価 B	
7 社会貢献	自己評価 B	外部評価 B	
8 その他	自己評価 A	外部評価 A	※新型コロナウイルス感染症対策
総合評価	自己評価 B	外部評価 B	

※ A 大変良い、B 概ね良い、C やや不十分、D 不十分の4段階評価

評価指標については、定量的な指標に関しては、北九州市の目標管理制度を参考に、A 120%以上、B 120～80%、C 80～40%、D 40%以下とし、これに定性的な要件を加味して総合的に判断した。

博物館評価表および博物館協議会における協議内容については、当館のホームページ <https://www.kmnh.jp/info/conference/> に掲載している。

#### (3) 今後の課題等（博物館協議会での意見から）

- ① ウィズコロナのなかで、またアフターコロナを目据えて、教育普及活動について、次のような工夫・充実が一層推進されることを期待したい。
  - ※ギガスクール構想をふまえた博物館と学校の連携（オンライン授業、体験型授業など）
  - ※中央教育審議会答申をふまえた分野横断型探究学習への対応
  - ※教職員を対象とした研修の実施
  - ※ワークシート「館内見学について」などの個人・団体利用の促進
  - ※学芸員の研究についてより積極的に紹介する企画の実施
- ② 北九州ミュージアムパーク創造事業は国の補助金を活用した大規模な事業であり、他の都市や他の施設のモデルを構築するものであることから、博物館評価の対象とした方が良い。
- ③ 市民や市政に貢献するような活動についても評価に組み込んでいく方が良い。

## 4. 令和3年度予算

歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金など)	160,004	企画展・特別展開催経費	52,600
社会教育施設貸付料	397	資料整備・調査研究経費	11,959
社会教育施設目的外使用料 (ミュージアムショップ使用料など)	1,401	教育普及経費	2,060
企画費雑入 (特別展観覧料、刊行物販売など)	51,129	ジオパーク活動推進経費	1,130
		博物館維持管理経費等	264,970
計	212,931	計	332,719

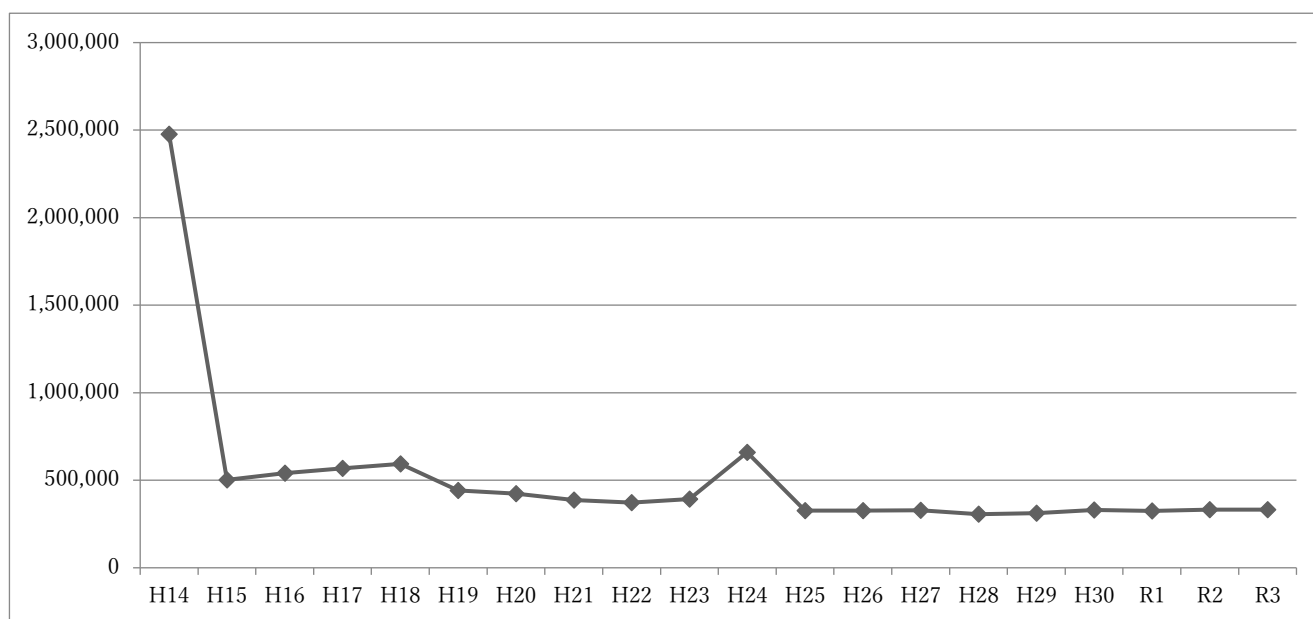
### 博物館予算(歳出)の推移

(単位：千円)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H14.11.3 開館		内、太陽光 発電設備整 備 32,000	内、太陽光 発電設備整 備 60,000	内、太陽光 発電設備整 備 108,000			
年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
予算額	372,731	392,184	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067	312,067
備 考			内、博物館展示・ 施設等改修事業 300,000					
年 度	H30	R1	R2	R3				
予算額	330,620	325,027	332,904	332,719				
備 考								

### 博物館予算(歳出)の推移 (グラフ)

(単位：千円)





## 5. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造）地上 3階

各室面積（単位：㎡）

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,232	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール(PMを除く)	1,885	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム (PM)	253	生物系研究室 (植物・昆虫)	29	副館長室	25
エンバイラマ館 (リサーチゾーンを含む)	1,067	生物系研究室 (動物・魚類)	29	事務室	163
自然発見館 (バイオリウムを含む)	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	1,755	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示 (カルチャーモールを含む)	89	燻蒸室 (前室を含む)	30	印刷室・出版物保管室	29
こどもミュージアム (乳幼児対象)	93	解剖室	46	救護室	21
こどもミュージアム (小学生対象)		無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
		脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
		岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
		昆虫標本処理室	30	管理人室	26
		動植物標本処理室	60	会議室 S	30
		液浸標本処理室	30	会議室 R	49
		技工室	60	会議室 X	37
情報部門	1,018	整理室	26	外来市民研究室	
ホール (オープンギャラリーを含む)	509	暗室 (前室を含む)	41		
ガイド館 (倉庫2を含む)	386	撮影室	40		
情報館	123	電子顕微鏡室	28		
		コンピューター室	40		
		保存科学室	25		
		薬品室・特殊薬品室	6		
探究部門	204	シャワー室	14		
実習室	123	器材倉庫			
講座室	81				
収蔵部門	2,506				
荷解室	96			サービス部門	463
一時保管室	64			ミュージアムショップ	156
組立室	52			休憩ルーム	206
冷凍室・冷蔵室 (前室を含む)	49			休憩デッキ	101
地学系収蔵庫	202				
液浸標本収蔵庫	221			供用部門	5,093
重量物収蔵庫	204				
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
動物標本収蔵庫	238				
昆虫標本収蔵庫	44				
模式標本収蔵庫	430				
歴史資料収蔵庫	75				
考古資料収蔵庫 (金属器を含む)	71				
特別収蔵庫	140				
古文書・古美術収蔵庫	138				
書庫	83				
展示準備室					
				合計	17,011

## 6. 沿革

昭和 50(1975)年	8月	北九州市立歴史博物館が小倉北区域内に開館 (8/1) 【歴史】
昭和 51(1976)年	10月	小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン料魚類化石 ディプロミスタスが発掘される 【自然史】
昭和 53(1978)年	4月	戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置 【自然史】
昭和 54(1979)年	1月	「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7) 【自然史】
昭和 56(1981)年	5月	北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2) 【自然史】
昭和 58(1983)年	8月	北九州市立考古博物館が九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田一丁目に開館 (8/1) 【考古】
昭和 59(1984)年	9月	北九州市と大連市の友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の 昆虫」展を開催 【自然史】
	12月	響灘沖から巨大珪化木の引き上げ 【自然史】
平成 5(1993)年	4月	考古博物館友の会発足 【考古】
平成 7(1995)年	5月	展示解説ボランティア制度発足 【考古】
平成 8(1996)年	7月	展示解説ボランティア制度発足 【自然史】
	10月	「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教授) が、「環境」 を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館からなるシャイン博物館構想「東田 地区文化施設の整備の方向について」を報告
平成 11(1999)年	6月	(仮称) 北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
平成 13(2001)年	3月	(仮称) 北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
平成 14(2002)年	11月	北九州市立自然史・歴史博物館が開館 (11/3) 小野勇一館長が就任 (11/3) 開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56日間)
平成 15(2003)年	3月	開館記念特別展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 : 37日間)
	4月	特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44日間 : 25,871 人)
	7月	特別展「発見！虫王国」(7/19～8/31 : 44日間 : 79,687人)
	9月	特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25日間 : 12,828人)
	10月	特別展「発掘された日本列島2003」(10/26～11/30 : 36日間 : 11,260人)
	12月	企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18日間)
平成 16(2004)年	1月	企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31日間)
	3月	企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11 : 38日間)
	4月	特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23 : 31日間 : 14,262人)
	7月	特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5 : 51日間 : 50,712人)
	10月	企画展「～片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」(10/1～12/26 : 87日間)
	10月	企画展「襦袢の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28 : 52日間)
平成 17(2005)年	1月	特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20 : 50日間 : 11,590人)
	3月	特別展「なぜ？なに？動物ワールド」(3/19～5/8 : 51日間 : 26,638人)
	7月	特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4 : 51日間 : 76,623人)
	10月	入館者100万人達成！(10/26)
	11月	特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11 : 24日間 : 3,739人)
	12月	特別展「恐竜博2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31 : 99日間 : 207,397人)
平成 18(2006)年	4月	企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28 : 30日間)
	7月	特別展「昆虫ワールド・カップ2006」(7/15～9/3 : 51日間 : 76,008人)
	9月	企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26 : 65日間)
	12月	特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31 : 104日 間 : 63,811人)
平成 19(2007)年	4月	企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6 : 22日間)
	7月	開館5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」(7/7～9/2 : 58日間 :

- 96,103 人)
- 平成 20(2008)年
- 10月 開館 5 周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」(10/12～11/11 : 31 日間 : 2,580 人)
  - 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11 : 52 日間 : 18,658 人)
  - 3月 入館者 200 万人達成！ (3/22)  
企画展(開館 5 周年記念事業)「5 年間のあゆみ展」(3/22～4/6 : 16 日間)
  - 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11 : 23 日間)
  - 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携 20 周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催 (7/19～9/21 : 65 日間)  
特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31 : 51 日間 : 56,360 人)
  - 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携 20 周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5 : 65 日間)
  - 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30 : 51 日間 : 6,659 人)
- 平成 21(2009)年
- 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8 : 38 日間 : 6,513 人)
  - 3月 企画展「ひとと海のものごたがり」(3/1～5/10 : 71 日間)
  - 5月 企画展「自然史友の会って何？ 友の会 30 年のあゆみと活動」(5/23～6/14 : 23 日間)
  - 7月 特別展「恐竜ラボ 2009～よみがえれ！恐竜ワールド」(7/18～8/31 : 45 日間 : 64,628 人)
  - 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23 : 66 日間 : 30,266 人)
- 平成 22(2010)年
- 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21 : 51 日間 : 6,567 人)
  - 2月 中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結 (2/6)
  - 3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？ なにをたべているのかな？」(3/20～5/30 : 72 日間 : 28,327 人)
  - 4月 伊藤明夫館長が就任 (4/1)
  - 7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5 : 51 日間 : 71,641 人)
  - 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28 : 51 日間 : 4,881 人)
  - 11月 仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印 (11/6)
- 平成 23(2011)年
- 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31 : 89 日間 : 22,598 人)  
入館者 300 万人達成！ (1/15)
  - 2月 入館者 300 万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13 : 3 日間)
  - 4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31 : 39 日間 : 19,297 人)
  - 7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4 : 51 日間 : 74,797 人)
  - 10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」(10/7～12/11 : 66 日間 : 11,493 人)
  - 2月 特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25 : 4 日間 : 11,158 人)
- 平成 24(2012)年
- 1月 別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12 : 42 日間 : 4,559 人)
  - 3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6 : 58 日間 : 25,121 人)  
同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間 : 6,857 人)
  - 7月 特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23 : 72 日間 : 102,921 人)
  - 10月 特別展「いのちのたび博物館 10 年のあゆみ～とっておきのコレクションが勢ぞろい～」(10/20～12/2 : 44 日間 : 30,283 人)
  - 11月 開館 10 周年記念行事 (11/3～4)
  - 12月 リニューアル工事休館 (12/3～3/22)
- 平成 25(2013)年
- 3月 リニューアルオープン (3/23)
  - 4月 北九州市制 50 周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16 : 58 日間 : 30,740 人)
  - 7月 北九州市制 50 周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1 : 51 日間 : 125,805 人)  
入館者 400 万人達成！ (7/25)
  - 9月 北九州市制 50 周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」(9/14～11/4 : 52 日間 : 20,990 人)
  - 12月 北九州市制 50 周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」(12/21～28, 1/2～2/11 : 49 日間 : 24,852 人)
- 平成 26(2014)年
- 3月 特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1 : 79 日間 : 54,700 人)  
年間入場者 60 万人超達成！ (3/31 : 622,701 人。過去 10 年間 [H15～24] の最多は平成 17 年度

		483,495人で、平均は363,379人)
	7月	特別展「THE モンスター展～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23：67日間：117,585人)
	11月	特別展「メタルズ！～変容する金属の美～」(11/1～12/23：53日間：11,448人)
平成 27(2015)年	3月	特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3/21～5/10：51日間：26,182人)
	4月	上田恭一郎館長が就任
	7月	入館者500万人達成！(7/4)入館者500万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23：75日間：102,123人)
	10月	入館者500万人達成記念特別展「医は仁術～解体新書からiPS細胞まで～」(10/10～1/11：90日間：20,058人)
平成 28(2016)年	1月	特別展「大正・昭和の暮らしと風景～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28：37日間：6,535人)
	3月	特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15：58日間：30,891人)
	7月	特別展「恐竜博 2016」(7/9～9/4：58日間：125,153人)
	10月	特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27：58日間：15,327人)
	11月	第1回東アジア友好博物館巡回展「着物が語る日本の心」(11/12～12/11：29日間)
		その後 旅順博物館および仁川広域市立博物館に巡回(中国大連市旅順博物館 2017年1/10～2/5：27日間：9,365人、韓国仁川広域市立博物館 2017年2/14～3/19：33日間：8,727人)
平成 29(2017)年	1月	特別展「発掘された日本列島 2016」(1/2～2/19：49日間：10,826人)
	3月	特別展「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(3/18～5/14：58日間 50,594人)
	7月	開館15周年記念イベント第1弾(7/14～9/3) 開館15周年記念特別展「大昆虫博」(7/15～9/3：51日間：122,294人)入館者600万人達成！(7/27)
	10月	開館15周年記念イベント第2弾(10/7～2/25)開館15周年記念特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(10/7～12/3：58日間：11,436人)
	12月	開館15周年記念特別展「アクア・キングダム～スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち～」(12/23～2/25：61日間：37,227人)
平成 30(2018)年	3月	特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」(3/17～5/13：58日間：37,000人)
	7月	特別展「へんてこモンスター」(7/14～9/24：73日間：119,141人)
	10月	特別展「食のたび～箸と和食の文化史～」(10/20～12/9：51日間：9,793人) ※中国旅順博物館企画の第2回東アジア友好博物館巡回展「箸と生活-中日韓の箸の文化」を拡大
	11月	東田ミュージアムパーク食の祭典 2018(11/17～18)
	12月	特別展「世界遺産のまち北九州と明治日本の産業革命遺産」(12/22～2/11：48日間：22,099人)
平成 31(2019)年	3月	特別展「獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」(3/16～5/12：58日間：47,859人)
令和元(2019)年	7月	特別展「探検！両生類・は虫類の世界」(7/13～9/16：66日間：119,013人) 入館者700万人達成！(7/10)
	10月	特別展「九州発！棟方志功の旅-彫り起こされた足跡と交流-」(10/12～12/1：51日間：8,456人)
	12月	特別展「コレクション大集合 モノが語る私たちの暮らしと自然」(12/21～2/11：49日間：23,154人)
令和 2(2020)年	2月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(2/28～5/18)
	4月	伊澤雅子館長が就任(4/1)
	5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館(5/19～5/29) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(5/30～6/21)
	6月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館(6/22～8/7)
	8月	Web事前予約システム導入(8/3～)
令和 3(2021)年	1月	特別展「名刀「博多藤四郎の輝き」—戦国を生き抜いた武士の絆—」(1/2～2/14：44日間：6718人)
	3月	特別展「わたしたち『収蔵庫』にいるんです—あつめる まもる つなげる—」(3/6～4/4：30日間：17,503人)

- 令和 4(2022)年
- 4月 北九州ミュージアムパーク連携企画展「北九州・産業都市の軌跡」(4/29～5/30、内 32 日間  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(5/12～5/30) : 16,289 人)
  - 7月 特別展「THE モンスター展 II」(7/17～9/26:76 日間 : 57,731 人)
  - 10月 鉄の都のものがたり～釜石と八幡～(10/16～11/28:44 日間 : 6,845 人)
  - 1月 特別展「博物館のお正月 2022～開館 20 周年 Year の幕開け～」(1/2～1/3 : 30 日間)
  - 3月 特別展「まるごとウマ展～ウマと人のキズナ～」(3/19～5/8:51 日間 : 20,516 人)

## 7. 入館者の状況

※平成14年度は、11/3～11/10 無料期間 51,905 人を累計に含む。

※平成24年度は、12/3～3/22 が改装工事で休館。

※令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2/28～3/31 休館。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4/1～5/18、5/30～6/21 は休館。また5/23～8/2 は土日祝日を休館。

※令和3年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため5/12～6/20 は休館、8/10～9/12 は常設展のみ休館。

入館者 総数 (人)	年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
	14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100.0%)	162,527
	15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100.0%)	483,952
	16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100.0%)	784,015
	17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100.0%)	1,267,510
	18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100.0%)	1,629,801
	19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100.0%)	2,009,248
	20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.2%)	322,726 (100.0%)	2,331,974
	21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100.0%)	2,675,364
	22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100.0%)	3,050,954
	23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100.0%)	3,426,608
	24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100.0%)	3,796,319
	25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100.0%)	4,419,020
	26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100.0%)	4,893,959
	27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100.0%)	5,366,348
	28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351
	29	230,942 (43.4%)	16,879 (3.2%)	142,794 (26.8%)	141,495 (26.6%)	532,110 (100.0%)	6,406,461
	30	218,100 (45.1%)	16,591 (3.4%)	126,849 (26.2%)	122,476 (25.3%)	484,016 (100%)	6,890,477
	R1	205,887 (45.5%)	12,818 (2.8%)	122,164 (27%)	111,994 (24.7%)	452,863 (100%)	7,343,340
	2	67,590 (49.1%)	5,748 (4.2%)	25,374 (18.4%)	39,024 (28.3%)	137,736 (100%)	7,481,076
3	114,885 (47.5%)	10,300 (4.3%)	53,034 (21.9%)	63,517 (26.3%)	241,736 (100%)	7,722,812	

## 8. 視察受け入れ状況

### 令和3年度 視察訪問受け入れ状況

№	月日	申請者	訪問者・団体	人数
1	4月3日	九州旅客鉄道(株) 営業部	九州旅客鉄道(株) 営業部法人旅行センター	97
2	4月22日	フジコー視察担当者	株式会社フジコー	14
3	5月6日	市民文化スポーツ局文化部	福岡県立八幡中央高等学校	117
4	8月2日	築城町社協 視察担当者	社会福祉法人築城町社会福祉協議会	57
5	11月15日	春日観光株式会社	那珂南ボランティア活動委員会	22
6	11月25日	名鉄観光サービス	福岡市香椎下原校区民生委員児童委員協議会	21
7	11月27日	清水則雄准教授	広島大学	52
8	12月1日	北九州市クルーズ交流課	関門橋クルーズ振興協議会	7
9	12月9日	(株) 国際交流サービス	国際交流の現場を訪ねる(北九州、山口)	15
10	2月24日	毎日新聞旅行	毎日新聞旅行東京	21

合計 423

## 9. 広報・報道実績

### (1) 令和3年度 博物館から報道機関（市政記者クラブ）に情報提供した件数

8件

### (2) 令和3年度 特別展等関連広報・報道状況記録

#### 1) 春の特別展「私たち『収蔵庫』にいるんです～あつめる まもる つなげる～」関連（R2.4.1分から）

※会期令和3年4月4日まで

ア) 新聞	1誌	8件	エ) ラジオ	0社	0件
イ) 雑誌等	0誌	0件	オ) インターネット	0社	0件
ウ) テレビ	0社	0件			

#### 2) 夏の特別展「THE モンスター展Ⅱ～攻撃と防御～」

ア) 新聞	3誌	203件	エ) ラジオ	1社	2件
イ) 雑誌等	10誌	14件	オ) インターネット	11社	11件
ウ) テレビ	2社	92件			

#### 3) 秋の特別展「鉄の都のものがたり—釜石と八幡—」

ア) 新聞	2誌	14件	エ) ラジオ	0社	0件
イ) 雑誌等	5誌	7件	オ) インターネット	8社	8件
ウ) テレビ	0社	0件			

#### 4) 新年特別展「博物館のお正月 2022～開館20周年 Yearの幕開け～」

ア) 新聞	0誌	0件	エ) ラジオ	0社	0件
イ) 雑誌等	5誌	5件	オ) インターネット	8社	8件
ウ) テレビ	0社	0件			

#### 5) 春の特別展「まるごとウマ展～ウマとヒトのキズナ～」関連

(R3.3.31分まで)

ア) 新聞	4誌	51件	エ) ラジオ	2社	18件
イ) 雑誌等	10誌	11件	オ) インターネット	12社	12件
ウ) テレビ	3社	3件			

#### 6) その他（特別展以外）

ア) 新聞 4誌 48件

「アンモナイト化石は新種 北九州市学芸員ら特定」

(読売新聞、毎日新聞、西日本新聞)

「北九州市の間欠『満干の潮』観測 30年結実 県天然記念物に 元学芸員の藤井さん 湧水メカニズムを把握」(朝日新聞、毎日新聞、西日本新聞) ほか



イ) テレビ 9社 13件

「ダーウィンが来た! 奄美大島SP西表島」(NHK)

「アサデス。7」(KBC)

「日曜日もシエスタ」(RKB) ほか

(3) 令和3年度 ホームページアクセス数

694,901件

(4) 令和3年度 SNS (Twitter、Facebook、Instagram、YouTube) での情報発信数

869件

Twitter

- ・北九州市立いのちのたび博物館 185件
- ・THE モンスター展II (いのちのたび博物館) 80件
- ・まるごとウマ展-ウマと人のキズナ- 28件
- ・わたしたち『収蔵庫』にいるんです (R2.4.1分から) 4件

Facebook

- ・北九州市立いのちのたび博物館 268件

Instagram

- ・北九州市立いのちのたび博物館【公式】 189件
- ・北九州市立いのちのたび博物館【自然史オンライン】 90件

YouTube

- ・北九州市立いのちのたび博物館 25件

## 10. 新型コロナウイルス対策

### (1) 概要

令和2年の初めから始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は、令和3年度に至っても変異を繰り返し、流行のたびに政府や福岡県からまん延防止重点措置や緊急事態宣言などが発令され、博物館運営にも大きな影響があった。

当館では、前年度に引き続きワーキンググループにて各種対策を議論・検討する一方で、コロナ感染症の流行状況や社会情勢等を勘案しながら、with コロナ社会に向け対策の緩和等を行った。

### (2) 全般対策班

全般対策班は、令和3年度も引き続き来館者の動線の検討、感染対策の緩和と強化の調整などを行った。

また、令和2年度の前半に臨時救護室を休憩ルームに設置したが、体調不良者が少なくほとんど稼働しなかったことから、令和2年度後半には撤収していた。しかしながら、令和3年度夏には、熱中症等による体調不良者の発生に備え、再度設置を行った。

その他、特別展ごとに会場入口の位置に合わせ、博物館出入口や券売機周辺の動線を検討した。(3)

### (3) イベント班

イベント班は講座などのイベントにおける感染対策を担当し、北九州市参与（危機管理・医師）の指導のもと、使用する部屋の構造や特徴を考慮して入室人数や着席位置をマニュアル化していた。

令和3年度は、with コロナ社会に対応していくため、令和4年度以降の緩和に向けた検討を行った。4年度以降の主な変更点は次のとおりである。

- 全講座共有：フェイスシールド、ビニール手袋の着用を必須から任意へ変更  
参加自粛要件の緩和（「14日以内」の発熱等症状→「当日」）
- 室内講座：シーダーの参加については担当者会議を受けて随時検討
- 館外講座：参加人数制限〔講師1：参加者5〕の割合→〔講師1：参加者10〕へ変更
- ガイド館を使用した講演：人数制限の緩和（80名→100名）、マイクの消毒（都度→終了後）

### (4) 入館調整班

入館調整班における主な課題・検討事項は、昨年度に続き特別展開催時における会場内滞在可能人数の算出であった。昨年度までは図面上に直径2mの円を描き、閉鎖空間となる会場の滞在可能人数を算出していたが、令和3年度からは二酸化炭素濃度が基準値を超えた場合に入場制限を行うことを決定し、あわせてマニュアル策定を行った。このマニュアルをもとに、特にゴールデンウィークや夏期の繁忙期には二酸化炭素濃度を注視してきたが、いずれも基準値を超えることはなかった。

また、入館者数も引き続きWeb事前予約システムにより制限をかけており、1日あたり3,600人の入館で特に問題ないことから継続している。

団体受付方法については、令和3年7月からは学校団体以外の団体についても可能とし、より多くの団体に来館いただけるようになった。

### (5) 展示・情報発信班

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年6月に全てのハンズオン展示を取りやめ、その後、同年10月に感染状況の推移を踏まえて順次再開を行った。令和3年度には、前年度に再開を保留していたハンズオン展示のうち、ヘッドフォンのような顔面に接触するものを除き、ほぼ全てのハンズオン展示を再開した。

また、新たな試みとしてオンライン企画展をSNS（Instagram）で開催・発信するなど、情報発信の強化に努めた。

## (6) 渉外担当

令和3年度は本格的な団体受入を踏まえ、令和2年度と同様に文化芸術振興費補助金（文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業）の助成を受け、団体入館者用のサーモカメラや学校団体の昼食場所としている休憩所にアクリルパーテーション、入口付近へのアルコール自動噴霧器を調達した。

また、空気清浄機20台が東アジア文化都市北九州実行委員会から寄贈されたことから、新たにエンバイラマ館などに設置し、感染防止対策が一層強化できた。

その他、令和3年度より民間企業による人流センサーを使った密感知システムの実証実験が館内で行われている。令和4年度も引き続きデータ収集に協力していく予定であり、その成果が期待されている。

## 1 1. 特別展

### (1) 北九州ミュージアムパーク連携企画展 「北九州・産業都市の軌跡―」

**期 間**：令和3年4月29日（木・祝）～令和3年5月11日（火）13日間  
※会期はもともと5月30日（日）までだったが、新型コロナウイルス感染症拡大による博物館の全面休館に伴って、5月11日をもって公開を中止

**会 場**：第一会場：博物館常設展歴史ゾーン  
（ぽけっとミュージアム No.9～11 を含む）  
第二会場：環境ミュージアム  
第三会場：旧鶴屋本店（八幡中央区商店街）

**入場料**：第一会場は常設展料金で観覧可能、第二・第三会場は無料

**観覧者数**：19,502人（3会場総計）／16,270人（第一会場）

**主 催**：東田ミュージアムパーク実行委員会  
（北九州ミュージアムパーク創造事業として開催）

**特別協力**：毎日新聞社

**協 力**：八幡中央区商店街協同組合

**担当学芸員**：日比野利信・中西義昌・馬場由行（第一会場）、佐藤明史（環境ミュージアム施設長）（第二会場）、上野晶子（第三会場）

#### 概 要

当博物館を「中核館」とする東田ミュージアムパーク実行委員会が実施している「北九州ミュージアムパーク創造事業」の連携企画展として、博物館（第一会場）と環境ミュージアム（第二会場）、八幡中央区商店街の旧鶴屋本店（第三会場）をつないで、北九州市の産業都市としての形成・発展から、公害を克服して環境未来都市へ転換する軌跡を一貫してたどり、SDGs 未来都市の創出を展望した。

#### 関連事業

合同写真展「懐かしの八幡思い出写真展」：4月29日（木・祝）～5月30日（日）

八幡中央区商店街と合同で開催

子ども記者：5月1日（土）、毎日新聞社と共催

北九州市立皿倉小学校 6年生の希望者 5名を招待して、北九州市の子どもたちの代表として、連携企画展各会場の展示について、担当学芸員の説明を受けながら見学し、所定のワークシートに学んだことや考えたことを記入。毎日新聞社記者の指導と質疑応答を受けて、新聞記事を作成し、毎日新聞紙上に掲載した。新聞紙上を通じて、同世代の子どもたちに対する情報発信につなげることを企図した。

ギャラリートーク：5月4日（火・祝）、旧鶴屋本店

鶴屋社長・原田隆好氏と担当学芸員が鶴屋や中央区商店街の歴史や思い出などについて解説した。

#### 内容構成

第1会場：自然史・歴史博物館

北九州市の産業都市としての発展と変化について、地図・写真などの関連資料や人口・戸数・産業・土地利用など基本データによって明らかにした。

テーマ1：北九州市の概要（カルチャーモール、文化学習園前通路）

- ①北九州市の成り立ち ②北九州市の人口・戸数・産業 ③土地利用の変化
- ④古写真にみる景観の変化（都市景観の変化／鉄道の風景／郊外の暮らし）



テーマ2：石炭と鉄がつくった工業都市（テーマ館 明治時代以降の北九州）

- ①筑豊の炭鉱と石炭輸送 ②官営八幡製鐵所
- ③北九州を代表する企業家安川敬一郎 ④渋沢栄一と北九州

テーマ3：社宅都市（民俗探究館）

- ①昭和30年代の八幡製鐵所社宅生活の再現 ②古写真にみる社宅生活の変化

テーマ4：小倉城下町の近代と現代（ぼけっとミュージアム№9）

- ①幕末の小倉城下町 ②夜明け前—復興と近代化の模索—
- ③軍都小倉—近代都市の形成と発展— ④小倉城下町の現代

テーマ5：港湾都市（ぼけっとミュージアム№10）

- ①関門海峡と門司港 ②洞海湾と若松港

テーマ6：世界遺産がある街・北九州（ぼけっとミュージアム№11）

- ①世界遺産「明治日本の産業革命遺産」ビジターセンター
- ②産業観光（近代化遺産／企業ミュージアム／工場見学／新日本三大夜景など）

第2会場：環境ミュージアム

公害のなかでの学校・市民生活や公害克服に向けた様々な取り組みを紹介して、北九州市が「ポスト産業都市」の「環境未来都市」としての再構築を進めた足跡を明らかにした（常設展）。またこれまでにあまり取り上げられてこなかった諸問題についても紹介した（企画展）。

テーマ7：空と海の公害

- ①城山小学校 ②城山小学校さらなる追跡 ③洞海湾 ④戸畑婦人会の活躍

テーマ8：市内の諸公害

- ①紫川と小倉製紙所 ②浅野セメント工場

テーマ9：「ポスト産業都市」から「SDGs未来都市」へ

- ①公害克服の産物 ②エコタウン、環境モデル都市
- ③環境首都グランドデザインの策定
- ④そして、北九州市の強みを生かした「SDGs未来都市」

第3会場：旧鶴屋本店

昭和5（1930）年に創業し、製鉄所のある街「鉄都」八幡とともにあった菓子屋「鶴屋」の店舗を再現、菓子サンプルや菓子型、箱や包装紙などの関係資料、店舗内外や商店街の古写真などを展示して、往時の都市生活や風景の変遷を紹介した。

テーマ10：鉄都八幡と名菓「八幡饅頭」

- ①鉄都八幡と中央町商店街 ②懐かしの「八幡饅頭」鶴屋

（日比野利信）



子ども記者担当学芸員の説明を聞く（5月1日）



旧鶴屋本店でのギャラリートーク（5月4日）

## (2) 夏の特別展「THE モンスター展 IIー攻撃と防御ー」

期 間：令和3年7月17日（土）～令和3年9月26日（日）

72日間

会 場：ギャラリー館

入場料：大人 800 円（団体 640 円）、高・大生 500 円（同 400 円）、  
小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料

観覧者数：57,731 人

担当学芸員：大橋智之・中原 亨・竹下文雄

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社、RKB 毎日  
放送

後 援：福岡県教育委員会、毎日メディアサービス・サンデー  
新聞

### 概 要

2014年夏の「THE モンスター展」の第二弾として開催した。前回は「生物の大きさの不思議」を扱ったが、今回は生物が生き残るために繰り広げている「攻撃と防御」をテーマに、絶滅してしまった種から現生種までの生物を幅広く展示し、生物が生き残るための多様な工夫を学んでいただけるようにした。会場は「攻撃」と「防御」の2テーマで分けし、それぞれのトピックで展示標本をまとめてテーマが伝えられるようにした。「THE モンスター展」の構成の鍵である「分類群を超えて特定の機能などのトピックで様々な生物をまとめて比較展示できる」ことを今回も「攻撃と防御」に沿って展開した。

コロナ感染症拡大防止対策として①ソーシャルディスタンスから算出した時間単位での入場者数の制限、②密防止として島展示や換気対策の壁レイアウトを極力避ける等の会場構成に取り組んだ。会期中数日は会場入口で人数調整のための待列が発生したが大きな混乱や感染拡大に繋がるような事態は生じなかった。今回も展示解説アプリ「ポケット学芸員」による展示解説を導入した。

コロナ感染症拡大防止対策及び福岡県に緊急事態宣言が発出されたこと等により8月10日（火）～9月12日（日）までは常設展を閉鎖し「THE モンスター展 II」のみの開催となった。

### 主な展示資料

化石等の絶滅種から現生種までの生物（植物・昆虫・甲殻類・貝類・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類等）の各種標本を約130点展示した。目玉標本は九州初公開となる絶滅したオオナマケモノ類のエレモテリウム全身復元骨格である。体長4メートルにもなる植物食の巨大なエレモテリウムは約150万年前の北アメリカに生息していた哺乳類である。

### 関連事業

関連イベントとして「夜のモンスター巡り 学芸員と夜の博物館を探検しよう！」を8月7日（土）・9月4日（土）に開催することを予定していたが、コロナ感染症拡大防止対策のため2回とも中止となった。



会場内の様子



エレモテリウム全身復元骨格

(大橋智之)





### (3) 秋の特別展「鉄の都のものがたり—釜石と八幡—」

期 間：令和3年10月15日（金）～令和3年11月28日（日）

45日間

会 場：ギャラリー館

入場料：常設展料金で観覧可能

観覧者数：6,845人

主 催：東田ミュージアムパーク実行委員会

（北九州ミュージアムパーク創造事業として開催）

共 催：釜石市、北九州市、

「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議

特別協力：毎日新聞社

協 力：日本製鉄(株)九州製鉄所、九州大学附属図書館付設記録資料館、宝樹寺

後 援：福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、NHK北九州放送局

担当学芸員：日比野利信・佐藤凌成・馬場由行

#### 概 要

北九州市と釜石市は製鉄業のまちとして歴史的なつながりがあり、平成27（2015）7月には釜石市の橋野鉄鉱山跡と北九州市などの官営八幡製鐵所関連施設を含む「明治日本の産業革命遺産」がユネスコの世界文化遺産に登録された。また平成23（2011）年の東日本大震災に際して、北九州市は釜石市に対する復興支援・協力をおこない、両市は友好関係を深め、平成25（2013）年2月に「北九州市・釜石市連携協力協定書」を締結した。本展は官営八幡製鐵所開業120年を記念して、釜石から八幡に至る近代製鉄の発展や製鉄業を軸とする両市の産業都市としての足跡をたどった。また東日本大震災から10年という節目の年に当たることから、両市の交流や復興支援協力についても紹介した。

#### 関連事業

開会式：10月15日（金） 釜石市長・北九州市長出席

ギャラリートーク 11月6日（土）午前、11月14日（日）午前・午後、

11月20日（土）午後、11月23日（火・祝）午前、

11月28日（日）午後 計6回実施

釜石市のお土産抽選会 11月6日（土）～11月28日（日）

#### 内容構成

##### 第1部 近代製鉄の誕生

釜石における近代製鉄誕生の経緯と釜石から八幡に至る近代製鉄技術の発展過程を明らかにした。

- 1 夜明け前：たたら時代
- 2 近代製鉄は釜石で始まった：大橋・橋野鉄鉱山
- 3 釜石における近代製鉄の発展：官営から民営へ
- 4 官営八幡製鐵所の解説と発展
- 5 近代製鉄の開拓者たち

##### 第2部 鉄都の軌跡

製鉄所のまち（鉄都）としての釜石・八幡（北九州）両市の歩みと独自の生活文化や風景、東日本大震災後の両市の交流などを紹介した。

- 1 鉄都の暮らしと風景
- 2 釜石艦砲射撃と八幡大空襲
- 3 ラグビーのまち
- 4 東日本大震災と復興
- 5 鉄都の現在—持続可能な都市をめざして



## 展示作品

大橋・橋野両鉄鉱山（釜石）関係資料：出土品、絵図、古文書、模型など

★「両鉄鉱山御山内並高炉之図」2巻を釜石市外で初公開

真名子鉄山関係資料：古野家文書（九州大学附属図書館付設記録資料館所蔵）

官営八幡製鐵所関係資料：古文書（建設地決定、開業当初のトラブルと克服）など

★大正時代の官営八幡製鐵所の作業風景映像を公開

吉田初三郎鳥瞰図：釜石市（原画）、八幡市（印刷図）

★釜石市の鳥瞰図3点（昭和12年・25年・30年）を東北地方以外で初公開

釜石市艦砲射撃関係資料：写真、砲弾、映像、紙芝居

八幡製鐵・新日鐵釜石ラグビー部およびラグビーワールドカップ2019関係資料

ジャージ、ボール、表彰楯、ポスターなど

東日本大震災の津波で壊れた（止まった）時計（鶴住居地区防災センター）

総計約150点

## 特記事項

製鉄業のまち＝「鉄の都」として歴史的なつながりの深い釜石市と北九州市初の交流展覧会。「明治日本の産業革命遺産」福岡県連絡会議が共催に入り、特別展の展示解説パンフレットを作成し、希望者に無料で配付した。

## 所見

ユネスコの世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」のうち製鉄・製鋼業に係る釜石市の橋野鉄鉱山から北九州市などの八幡製鐵所へと至る近代製鉄の発展過程を跡付けて、世界文化遺産としての価値やストーリーを明示することができた。また「鉄の都」として多くの共通点がある両市のまちなみや暮らし、さらに東日本大震災以来特に親密になっている両市の交流について紹介することができた。節目の年に相応しい内容の展覧会となった。展示作品についても、釜石市所在・所蔵の豊富な歴史資料を精選して展示し、北九州市周辺ではふだん接することができない貴重な機会を提供することができた。特に「両鉄鉱山御山内並高炉之図」（釜石市所蔵）の原本を釜石市以外で初公開した（全場面を拡大パネルで詳しく紹介）ことは特筆される。ただし中国地方を中心とする「たたら」製鉄の歴史、それが少なくとも明治前期まで併存していたことについてはほとんど紹介できなかった。

平成30（2018）年度の冬の特別展「世界遺産のまち・北九州と明治日本の産業革命遺産」と近接した内容で、同様の料金設定であったが、観覧者数は22,099人に対して本展はそれを大きく下回った。コロナ禍の影響が大きく、全体の入館者数が減ったとしても、本展の展示内容や広報について改善の余地はあったはずである。製鉄の技術とその発展について、より体験的・体感的に紹介するように努めるべきであった。今後の課題としたい。

釜石市と北九州市の交流が東日本大震災10年で一区切りとはいえ、今後も継続されるなかで、博物館を軸とする歴史に根差した交流をさらに進展・深化させたい。

（日比野利信）





#### (4) 博物館のお正月 2022～開館 20 周年 Year の幕開け～

期 間：令和 4 年 1 月 2 日（日）～令和 4 年 1 月 31 日（月）

30 日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入場料：常設展入場料で観覧可能

観覧者数：17,203 名

担当学芸員：上野晶子（歴史課）・中西希（自然史課）

・村口瑠望（普及課）

主 催：北九州市立自然史・歴史博物館

#### 概 要

毎年おこなっている干支展示を発展させ、自然史と歴史の両分野を持つ総合博物館としての特長を生かして、正月や干支に関する展示をおこなった。

展示会場は「めでたい」をテーマとした縁起物、正月の習慣、令和 4 年の干支である虎などに関する着物、絵画資料、古文書、標本などを展示するとともに、開館から 20 年間に開催した展覧会ポスターによる年表展示などをおこなった。特に、干支である虎については、剥製標本を中心に自然史の視点から虎の生態を紹介する一方で、歴史の視点から人間が育んできた文化における虎の位置付けについて考えた。また、20 年の歩みを振り返るコーナーとして、北九州博覧祭やこれまで開催した展覧会ポスターによる年表展示をおこなった。さらに、メモリアルイヤーとして令和 4 年度に開催予定の特別展について、予告展示をおこなった。

#### 展示資料

七福神図屏風、鶴亀寿老人図、吉祥文の祝い着、引札などの吉祥文や縁起物に関する資料、年始状、江戸幕府老中連署奉書、日記などの正月の習慣を紹介する資料、縁起が良いとされた鶴・亀の剥製、目が出た（めでたい）三葉虫化石、虎柄のファイアサラマンダー・紅白柄のミルクヘビの生体、2022 年の干支である虎の剥製 3 体、掛軸、虎の名前が付く魚の標本などを展示した。また、展覧会入口には、池坊小倉支部の協力により、生花を展示した。

#### 関連事業

「新春お年玉企画」として、令和 4 年度に開催予定の 5 つの展覧会に関するスタンプを設置し、スタンプを集めた先着 2022 名に、博物館オリジナルグッズの詰め合わせプレゼントをおこなった。

(上野晶子)



歴史資料と自然史標本を同時に見ることができる



虎の標本は記念撮影スポット

## (5) まるごとウマ展 ―ウマと人のキズナー

期 間：令和4年3月19日（土）～令和4年5月8日（日） 51日間  
（次年度への継続事業）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入場料：大人 500円（団体 400円）、高・大生 300円（同 240円）、小・  
中生 250円（同 190円）、未就学児無料

観覧者数：20,516名 ※会期を通しての入場者数

担当学芸員：大橋智之・宮元香織

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援：日本ウマ科学会、福岡県教育委員会

学術協力：武豊（日本中央競馬会）、和田直己（山口大学共同獣医学  
部生体システム科学）

協 力：到津の森公園、海の道むなかた館、エルメス、小倉競馬場、ZENNO MANAGEMENT、田川市  
石炭・歴史博物館、トヨタ自動車九州株式会社、長瀬智之、ニッケ商事株式会社 CAVALLO、日  
本中央競馬会、公財）馬事文化財団・馬の博物館

### 概 要

人類の歴史に大きく影響を与えてきたウマについて、動物としての進化や多様化、体の特徴等自然史分野の解説と、人の暮らしや文化的な面での関わり等歴史分野の解説を貴重な標本や資料をもとに3章構成で紹介。自然史と歴史の双方から総合的にウマをまるごと楽しめる特別展。

第1章では約5000万年前から化石が知られているウマ類の進化を化石レプリカや生体復元模型展示から比較することで、サイズや指の数等の形態の違いがわかるように展開した。

第2章ではウマ類の手足の骨格の特徴を他の哺乳類と比較して示すこと、日本在来馬を含めた野生種を骨格や剥製で紹介すること、全身骨格の各部位に見られるウマ類の特徴を示すことで、ウマ類をより詳しく知っていただくことやその特徴を人間がどのように活用してきたのか・第3章へのブリッジとなるように構成した。

第3章では考古資料や歴史資料を中心に馬と人がどのようにかかわり、暮らしてきたのかについて紹介した。人類が馬をあやつり始めた頃の中央ユーラシア出土の青銅製轡金具、日本国内出土の馬鈴や鐙、鞍などの金銅製、鉄製馬具等を紹介した。また近世において馬糞が痔の薬として使われていた例や農耕に従事した馬が装着したとみられる古墳時代の馬鍬等を展示した。この他、市内に所在する小倉競馬場の歴史について、近代資料等から触れ、競馬関連資料としては馬主から借用した優勝レイやカップ等も展示した。また、著名な競走馬画家である長瀬智之氏の原画なども展示し、歴史・文化のみならず美術の分野からも馬に迫った。更に第3章で特筆すべき展示はエミール・エルメス・コレクションの女性用馬具である。エルメスジャポンのキュレーターを選定により、フランスから借用した馬具コレクションは、女性が乗馬することに特化したテーマで構成された。前段階までの歴史系の展示が馬具そのものとそこに込められた職人たちの技術や使われた歴史について言及したものが多かったのに対して、馬具から騎手、そしてそこから派生する文化にまで迫った点で、展示の深みがさらに増したと考えている。

また、来場者の特徴としては男性一人もしくは成人の男女ペアの入館が目立った。特に競馬に関心が高いとみられる方が競馬に関する展示を熱心に読み、写真を撮るなどする様子があった。

### 主な展示資料

祖先種から現生種までのウマの化石、骨格、剥製等自然史系標本。遺跡から出土した馬具や騎馬俑、屏風等の歴史資料。長瀬智之氏の絵画作品。小倉競馬場や競馬に関する資料等。エミール・エルメス・コレクションの女性用馬具類や絵画作品。和田先生と武豊騎手監修による「人馬一体」標本の初公開など。





## 関連事業

関連イベントとして2回のナイトミュージアムと1回の小倉競馬場バックヤードツアーを予定していた。ナイトミュージアムについてはコロナウイルス感染症予防の観点から実施しないこととした。小倉競馬場バックヤードツアーは小倉競馬場に協力していただきコロナ感染症拡大防止対策を十分にした上で開催予定である。

(大橋智之・宮元香織)



第1章 ウマ類進化の比較展示



第2章 ウマの骨格展示



第2章 野生種の比較展示



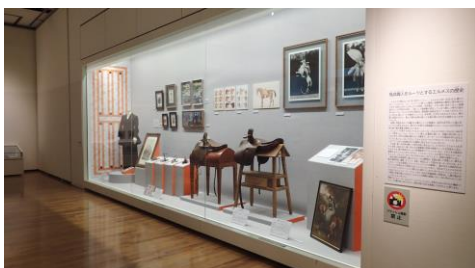
第3章 騎馬俑（左）と青銅製轡金具（右）



第3章 日本古来の馬具類



初公開展示「人馬一体」



第3章 エミール・エルメス・コレクション



第3章 原画「創世」長瀬智之



第3章 競馬に関する展示



第3章 競馬・馬術に関する展示

## 12. 企画展・その他展示

### (1) 「山本作兵衛コレクション ユネスコ「世界の記憶」登録10周年記念交流キャラバン展「炭坑の記録、世界の記憶」

期 間：令和3年3月16日（火）～令和3年4月18日（日）34日間

会 場：ぼけっとミュージアム No.9～10

入場料：常設展入場料で観覧可能

主 催：田川市石炭・歴史博物館、北九州市立自然史・歴史博物館

#### 概 要

田川市等が所蔵する山本作兵衛の炭坑記録画作品と関連資料（「山本作兵衛コレクション」）が2011年5月にユネスコの「世界記憶遺産」（現在は「世界の記憶」）に登録されてから、今年で10周年を迎えることを記念して、田川市が計画した、福岡県内各地を巡回する交流キャラバン展の幕開けとなる展覧会。「世界の記憶」に登録されている原画作品10点のほか、複製作品や関連資料を展示した。登録後の原画作品の公開は九州国立博物館・福岡市博物館以外では初めてである。

当館の前身の北九州市立歴史博物館は1975年の開館に際して、山本氏に炭坑記録画2点（坑内・坑外）の制作を委嘱したが、その作品2点は山本作兵衛最大の作品として独自の価値を有しており、これまでも様々な場面で紹介してきた。本展は山本作兵衛の「世界の記憶」登録作品と最大の作品が同じ時期・同じ場所で公開されるという点で、独自の意義を有している。

担 当：朝鳥和美（田川市石炭・歴史博物館）、日比野利信

（日比野利信）

### (2) 世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」八幡製鐵所関連施設ビジターセンター

期 間：令和3年3月16日（土）～約1年間

会 場：ぼけっとミュージアム No.11

入場料：常設展入場料で観覧可能

主 催：北九州市企画調整局（世界遺産課）

#### 概 要

北九州イノベーションギャラリー（KIGS）の休館に伴って、KIGSに設置されていたユネスコ世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄製鋼・造船・石炭産業」の八幡製鐵所関連施設ビジターセンターがKIGSの再開館まで約1年間当館に移設された。田川市の交流キャラバン展に合わせて公開を開始した。なお4月29日から5月11日までの期間は北九州ミュージアムパーク連携企画展「北九州・産業都市の軌跡」に組み込んだ。

担 当：金子大輔（北九州市世界遺産課）、日比野利信、馬場由行

（日比野利信）

### (3) テーマ展「廃藩置県150年 小倉県とその時代」

期 間：令和3年3月12日（金）～令和3年4月18日（日）38日間

会 場：テーマ館「明治時代以降の北九州」

入場料：常設展入場料で観覧可能

主 催：北九州市立自然史・歴史博物館

#### 概 要

明治4（1871）年の廃藩置県から今年150年を迎えることを記念し、小倉県（1871-76）関係資料を紹介した。幕末の戦災と小倉藩庁の移転という激動に見舞われた小倉は小倉県の県庁所在地となって復興と近代化が追及された。また小倉県（初期県政という）の時代は、学制や徴兵令、地租改正など様々な近代化政策が試行錯誤とともに実施されたことでも重要な意味を持つ。本展は「石炭と鉄がつくった工業都市」として発展する以前の北九州地域の一端を垣間見ることを企図した。なお4月29日から5月11日まで、内容を修正・集約し、場所を変えて、北九州ミュージアムパーク連携企画展「北九州・産業都市の軌跡」に組み込んだ。

担 当：日比野利信

（日比野利信）

## (4) 蓮—極楽浄土の花

期 間：令和3年6月21日（月）～8月22日（日） 50日間  
※期間中、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため  
8/10～8/22は休館。

会 場：ぽけっとミュージアム No.9～10

入場料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：富岡優子

### 概 要

蓮は極楽浄土に開く花として、仏教との結びつきの強い花であり、人々は極楽往生を遂げたのち、極楽にある蓮の葉の上に生まれ変わると考えられてきた。小倉北区にある広寿山福聚寺には藕糸（蓮の茎から引き出される糸）を使用した最古の作例とされる藕糸織仏画3幅が所蔵される。これらは小倉藩主小笠原忠真の菩提を弔うため忠真の側室で二代藩主の生母・永貞院が制作したもので、350年を経てなお美しさを保ち福岡県指定の有形文化財となっている。本展では藕糸織仏画を中心に、仏教と蓮、また北九州と蓮の関わりについて紹介した。なお、本展には科学研究費補助金（基盤 C）藕糸織の基礎的研究—非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に-（代表：富岡優子）の研究成果の一部を反映した。

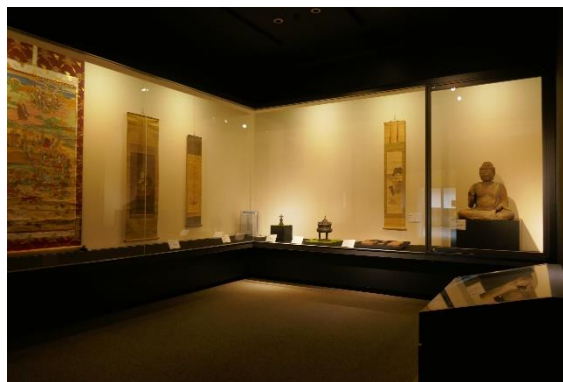
### 主な展示内容

第1章「美しきハス～横田古代蓮園出張展示～」では、横田直行氏が30年かけ自宅（横田古代蓮園）に蒐集、栽培したハスのうち、厳選した五品種を実物展示した。第2章「日本最古の藕糸織仏画」では福聚寺と同寺所蔵の藕糸織仏画を紹介。藕糸織仏画に関する最新の科学調査の成果や藕糸織の復元実験などの過程も紹介した。第3章「北九州とハス」では現在の北九州で見ることができないハスについて、ひと昔前の北九州市ではハスはどこでも見ることができた非常に身近な植物だったことを絵画資料などにより提示した。第4章では仏の姿を象る仏像や仏画また仏具などを紹介し、ハスと仏教の関わりについて紹介。福聚寺の絵画や工芸、長圓寺の仏涅槃図、宗光寺の阿弥陀如来坐像など市内寺院の優品を中心に展示した。

(富岡優子)



ぽけっとミュージアム No. 9 展示風景



ぽけっとミュージアム No. 10 展示風景



(5) 北九州の古文書Ⅰ—近世武家文書—  
北九州の古文書Ⅱ—松前氏宛て徳川將軍朱印状—

期 間：令和3年9月13日（月）～10月31日（日）49日間（Ⅰ）  
令和3年9月27日（月）～10月31日（日）35日間（Ⅱ）

会 場：ぽけっとミュージアム No.9（Ⅰ）・No.10（Ⅱ）

入場料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：守友 隆

概 要

（北九州の古文書Ⅰ）

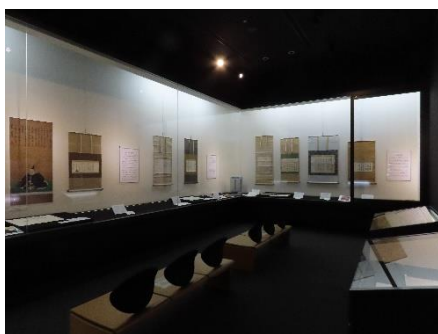
構成は、①中世から近世への移行期、②豊臣政権期、③細川小倉藩時代、④小笠原小倉藩時代の4期に分けて、その時期の北九州を代表する館蔵古文書のうち19通と参考史料1点（個人蔵、近現代文書）の計20点を紹介した。

①中世から近世への転換期である戦国時代、現北九州市域をめぐって、北部九州の有力戦国大名である大友氏と中国地方の毛利氏が争奪戦を繰り広げていた。まず、毛利隆元・大友圓齋（義鎮・宗麟）の文書を展示した。毛利隆元書状は、大友氏との合戦で討死した貫助八の母に宛てたもので、女性に宛てたため漢字仮名交じりの文章となっている。大友圓齋の官途状には、圓齋の洗礼名ドン・フランシスコを省略した「FRCO」の朱印が押されており興味深いものである。

②一般的に九州が近世となるのは豊臣秀吉の九州平定戦の後とされる。はじめに、秀吉、豊臣秀次が北九州市域の武将に出した書状を紹介した。豊臣秀吉朱印状は、九州平定戦直後に豊前国宇佐郡の国衆（国人）である時枝鎮継（武蔵守）に宛てたものである。時枝氏は、黒田氏の与力となることを命じられ、やがて黒田の家臣となる。豊臣秀次書状は、豊臣政権期の小倉城主毛利吉成（勝信）の嫡子吉政（勝永・豊前守）に宛てられたもので、当市指定文化財にもなっている。他にも、関ヶ原合戦直前の黒田如水の動向を示す書状（桐山丹齋宛て黒田如水書状）を展示した。

③関ヶ原合戦後、北九州市域は豊前国の細川氏と筑前国の黒田氏の領地となった。細川忠興がローマ字印で証判を押した文書、細川忠利知行宛行状などを展示した。慶長18年（1613）10月16日付け「覚」は、細川小倉藩の奉行人が忠興に伺いを立てたもので、忠興が自筆で回答を記し、ローマ字印を押している。元和5年（1619）12月付け、弓削清左衛門尉宛て細川忠利知行宛行状は、豊前国仲津郡山鹿村と大村（現みやこ町犀川）の内で300石を与えたことを保証したものである。

④細川氏が熊本に国替になった後、小笠原氏が小倉藩主となった。歴代小笠原小倉藩の藩主の文書（初代忠真、4代忠総、8代忠嘉）や徳川將軍御内書の一部（2代秀忠、8代吉宗）を展示した。他に、熊本藩細川家の分家、宇土藩細川家の前藩主（隠居）に宛ての幕府老中奉書（田沼意次）なども紹介した。なお、参考資料として柳原白蓮自筆草稿1点を展示した。



ぽけっとミュージアム No. 9 展示風景

## （北九州の古文書Ⅱ）

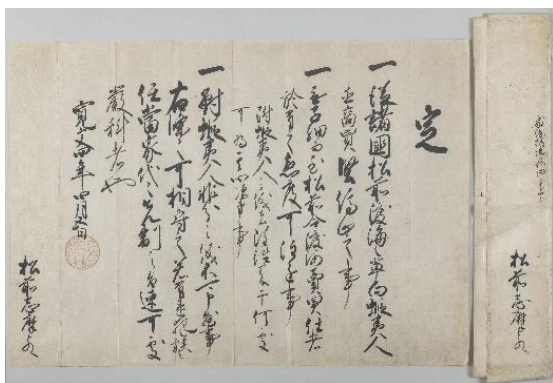
本展では、新出古文書である松前藩主松前氏宛て徳川將軍朱印状の原本 8 通を始め、黒印状・朱印状写 4 通、松前氏関連史料 4 通の全 16 通を展示した。本史料は、市内の収集家である故前田勇氏旧蔵で、ご子息が当館に寄贈された史料のうち未整理史料群から見つかったものである。

開催当時、国立アイヌ民族博物館（北海道日老町）が開館して約 1 年半が経っていたが、本展では近世の松前口・蝦夷口やアイヌ民族の歴史は、北九州市民のみならず日本国民を学ぶきっかけをつくることを図した。さらに本展で展示する江戸期から現代まで大切に守られてきた古文書は歴史に対する理解を深めてもらうツールであり、今後こうした古文書の収集・保存が重要な博物館の使命であることを理解してもらうことを目的の一つとした。

本展で展示した古文書は、近世日本の対外関係史に関する新出史料である。北海道でも松前氏宛て徳川將軍朱印状（黒印状）は写を含めても 2 通しか現存しておらず、極めて貴重な史料である。北海道に現存するのは、初代家康黒印状（原本）1 通（北海道博物館所蔵）、9 代家重朱印状写 1 通（松前町郷土資料館寄託）である。今回展示したのは、4 代家綱・6 代家宣・9 代家重・10 代家治・11 代家斉・13 代家定・14 代家茂（2 通）の朱印状 8 通、初代家康黒印状写・5 代綱吉・12 代家慶・13 代家定の朱印状写 4 通の計 12 通である。その他、関連史料として、松前氏の国替に関係して出羽国（現山形県）の修験者に与えられた家定朱印状写 2 通、その他松前崇広宛て書状 2 通も展示した。

北九州市域の小倉藩主・小倉新田藩主小笠原氏宛ての將軍判物・朱印状原本は管見の限り 1 通も確認されていないことから、いかに当館所蔵の松前氏宛て徳川將軍朱印状が希少で貴重かが分かる。なお、詳細は当館『研究報告』B 類歴史第 19 号（2022 年 5 月）掲載の「松前藩主松前氏宛て徳川將軍朱印状の紹介」を参照していただきたい。

（守友 隆）



徳川家綱朱印状（松前高広宛て）



ぼけっとミュージアム No. 10 展示風景

## (6) わくわくタイムトラベル いま むかし—道具とくらしのうつりかわり—

**期 間**：令和3年11月6日（土）

～令和4年3月31日（木） 142日間

※12/29～1/1は休館

**会 場**：ぼけっとミュージアム No.9～10、カルチャーモール

**入場料**：常設展入場料で観覧可能

**担当学芸員**：上野晶子・中西義昌

**担当MT**：松永庸助・池田優・金子滋夫・森田伸代

### 概 要

例年おこなっている小学校3年生社会科単元「わたしたちの市の歩み」のうち「かわる道具とくらし」の学習支援を目的とした展覧会で、道具やくらしのうつりかわりについて紹介するものである。今回は展示会場を「およそ100年前のくらし—大正～昭和の初め頃—」と「およそ50年前のくらし—昭和40年代頃—」の2つの会場に分け、当時の子ども的一天を「朝の風景」「学校生活」「放課後—遊び・手伝い—」「夜の時間」とし、各時代のくらしについて紹介した。

また、カルチャーモールにおいて、学校給食の変遷について食品サンプルと年表を展示し、SDGsの観点から北九州市独自の取組を紹介するとともに、シビックプライドの醸成へとつながるような展示をおこなった。

今回の展示では、各時代の道具の特長、使い方、変遷などに加え、「くらし」の様子をより分かりやすく伝える方法を模索した。その試みとして、当時の様子を描いた版画、写真をパネルや動画で紹介すること、子どものイラストと吹き出しパネルによる見出し、当時のくらしに関する豆知識パネルなどを設置した。

### 主な展示内容

第1章「およそ100年前のくらし—大正～昭和の初め頃—」では、電気やガス、水道などのインフラが整備された一方、生活道具はかまどや七輪、火鉢、ランプなど火力を中心としていたことを紹介した。学制発布によりすべての子ども達が小学校へ通えるようになった一方、子ども達は親の手伝いや弟や妹の世話をする家事の重要な担い手であった。

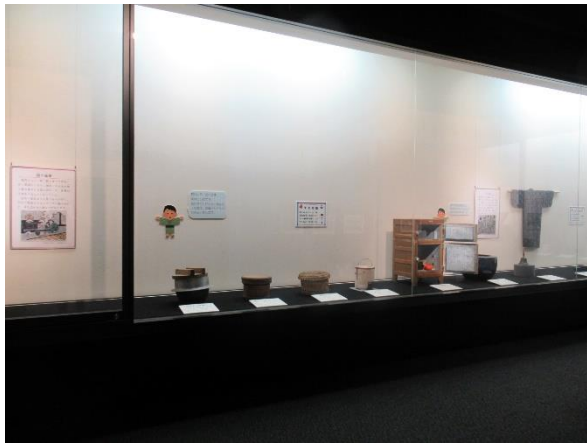
第2章「およそ50年前のくらし—昭和40年代頃—」では、経済が発展し、鉄筋コンクリート造の住宅の建設、生活の洋風化、電化製品の普及による生活様式の変化を紹介した。特に電気炊飯器や洗濯機は家事の負担を大きく軽減し、女性の社会進出や家族団らん時間の増加など、日々のくらしに大きな影響を与えた。

学校給食の変遷では、高度経済成長とともに、食を取り巻く社会環境が大きく変化したことで、食習慣の乱れ、肥満や過度のやせ、生活習慣病、孤食等、さまざまな課題が見られるようになり、それらの問題を多面的に解決するために、学校給食の目的が変わり、給食が学校における食育の推進の場を担うようになったことを紹介した。また、近年の北九州市の取り組みとして、給食レシピコンクール受賞献立、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを記念した地域の和食料理人提供献立、東京オリンピック・パラリンピックで北九州市がホストタウンとして受け入れたコロンビア料理、特別支援学校の段階食、ストローレスの牛乳パックについての展示をおこなった。

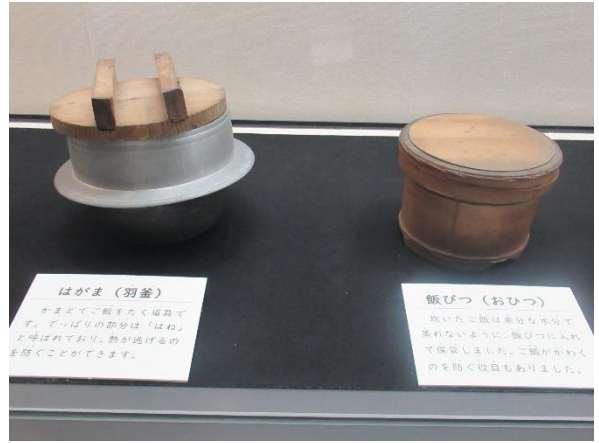
(上野晶子)







第1章「およそ100年前の暮らし」展示風景



第2章「およそ50年前の暮らし」展示風景



学校給食の変遷 展示風景

## (7) 戦国時代の北九州および戦国時代の北九州の常設展示更新

定期的な展示替えによる資料保護、および来館者に北九州の歴史をわかりやすく伝える目的から、令和3年度は2度にわたって常設展示の更新をおこなった。

### (1) 戦国時代コーナーの更新

公開開催日：令和3年9月13日（月）

会場：テーマ館「平安・鎌倉・室町時代の北九州」

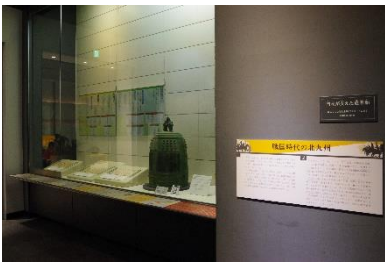
入場料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：佐藤凌成

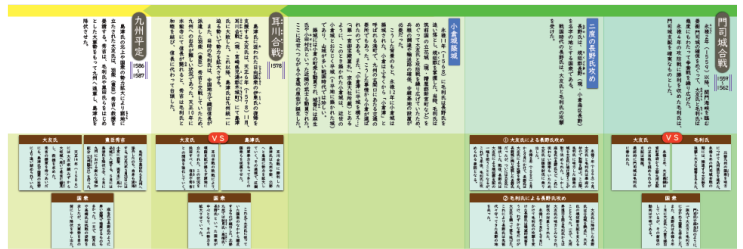
#### 概要

北九州をめぐる争乱の様相や、中世北九州地域の歴史的な位置づけを提示し、来館者に北九州の戦国時代への興味・関心をもってもらうことを主眼としたものである。戦国時代コーナーに総論パネル・年表パネルを新たに設置することで、来館者に歴史の流れを掴んでもらえるよう工夫した。

#### 主な展示内容



戦国時代コーナー展示風景



年表パネル

(佐藤凌成)

### (2) 『平家物語図屏風』の展示および展示資料の掘り下げ

公開開催日：令和4年3月26日（土）

会場：テーマ館「平安・鎌倉・室町時代の北九州」

入場料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：佐藤凌成

#### 概要

特に鎌倉時代コーナーについて、館蔵資料のうち『平家物語』を描いた屏風を展示した。デジタルサイネージを導入することで、源平合戦のあらすじと描かれた『平家物語』について来館者に示した。

また、室町時代コーナーおよび戦国時代コーナーについては、北九州の武士・麻生氏が入手した武家故実書『騎射秘抄』や、同じく北九州の武士・長野氏に宛てられた書状に注目し、これらについて掘り下げた展示解説を付すことで、中世武士の文化や贈答儀礼といった多様な側面を紹介した。

#### 主な展示内容



鎌倉時代コーナー展示風景



『騎射秘抄』展示風景

(佐藤凌成)



## (8) 二枚貝と共生する奇妙な形の新種アンモナイト化石特別公開

期 間：令和3年4月23日（金）

～令和3年6月6日（日）45日間  
（感染症拡大の影響で5月12日より  
休館となったため、実際は19日間）

会 場：ぽけっとミュージアム4 アンモナイト

入場料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：御前明洋

### 概 要

香川県東かがわ市に分布する、約7400万年前（白亜紀後期）の地層より産出した異常巻アンモナイトの化石を新種「ディディモセラス・モロズミイ」として報告する論文が掲載されたことに合わせ特別公開をおこなった。本種は、別の2種の異常巻アンモナイト、ディディモセラス・アワジエンゼと、プラビトセラス・シグモイダーレの先祖と考えられ、また、これら3種のアンモナイトは二枚貝と共生していたと考えられることから、その進化学的、古生態学的意義についても紹介した。なお、研究に用いた観察標本は、当館、徳島県立博物館、大阪市立自然史博物館に収蔵されており、研究成果はこれら3館で同日公開された。

（御前明洋）



## (9) 伝説の泉 満干の潮

期 間：令和3年7月3日（土）～令和4年6月30日 318日間（予定）

※新型コロナウイルス感染症防止のため 8/10～9/12は常設展休館、12/29～1/1は休館、令和4年度燻蒸期間（休館：6/13日～6/19日予定）

会 場：恐竜デッキ（中2階）

入場料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：太田泰弘・中原 亨

### 概 要

「満月の満潮に満ちる」小倉南区頂吉（かぐめよし）には、古くから語りつがれた伝説の泉「満干の潮（みちひのしお）」が存在する。本泉は、令和3年7月9日、福岡県天然記念物に指定される運びとなった。本展示では、天然記念物指定を祝した速報展示として、カルスト性間欠冷泉である「満干の潮」の不思議について展示を行った。

### 主な展示内容

本展示では、8枚のパネル解説に加えて、湧水の瞬間をとらえた動画を交えて、突然湧き出る「満干の潮」の不思議について紹介した。パネルでは、藤井厚志名誉館員の研究データ（藤井、2021：福岡県北九州市小倉南区の間欠冷泉 満干の潮の研究）をもとに、「満干の潮」の名の由来をはじめ、所在地の大地（地質）の概要、湧き出す間隔（リズム）や月の満ち欠けとの関連に加えて、地球潮汐の影響下で湧き出す間欠冷泉の仕組みなどを解説した。また本泉がカルスト地域に発達した、国内最大のカルスト性間欠冷泉であることなど、学術的にも極めて重要で、大変、珍しい自然現象であることなどを含め、平易・簡略化した図や表を用いながらパネル展示を実施した。さらに地下水が間欠冷泉として湧き出す現象をとらえた映像に、流量等の解説文を加えるなど編集を施し、大型液晶ディスプレイを用い放映するなど行った。

（太田泰弘・中原 亨）



## (10) 漂着軽石の展示

期 間：令和3年11月5日(金)～11月19日(金)  
15日間

会 場：エントランス

入場料：無料

担当学芸員：森 康

### 概 要

令和3年10月4日頃から沖縄などに大量の軽石が漂着し、漁業や観光への影響が報道された（例えば、朝日新聞DIGITAL, 2021年10月25日）。この軽石は、同年8月に小笠原近海の海底火山・福德岡ノ場の噴火でできたものと考えられる。当館では、伊澤雅子館長が沖縄県北大東島で採集した軽石の展示を行った。パネルによる解説のほか、軽石を水に浮かべた状態で展示するなど、報道内容を直感的に理解できるよう工夫した。無料エリアでの展示だったため観覧者数は不明だが多くの方に関心を持っていただけたと思う。なお、展示された軽石は標本として収蔵されたほか、出前授業に活用されている。



### 引用

朝日新聞DIGITAL (2021) <https://www.asahi.com/articles/ASPBT6DSBPBTIPE00H.html>, 2022年4月6日閲覧)  
(森 康)

## (11) 北九州のヤマグチサンショウウオ？展示

公開日：令和3年12月7日（火）

会 場：バイオリウム前カウンター

入場料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：江頭幸士郎

### 概 要

当館の調査により、これまで福岡には生息しないと考えられてきたサンショウウオの一種ヤマグチサンショウウオが、北九州に生息する可能性が示唆されたため、当該種の実物を展示し解説した。北九州北部のサンショウウオがもつ遺伝的な特異性と、今後種帰属が変わる可能性があることなどを解説することで、北九州の生物多様性やそれが形成されてきた歴史的背景に想像を巡らせる呼水するとともに、最新の知見によるこれまでの定説が変わっていくという科学のダイナミックさを実感していただくことを目指した。



(江頭幸士郎)



## (12) クリスマス展示

期 間：令和3年12月6日（月）～令和3年12月25日（土）20日間

会 場：恐竜デッキ

入場料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：中西 希

### 概 要

来館者サービスの一環として、クリスマスシーズンである12月にサンタクロースと繋がり深いトナカイを紹介し、記念撮影を行えるように展示を行った。

展示標本：トナカイとプレゼントを乗せた木製のそりを並べて展示し、トナカイがそりを引いている様子を表現した。トナカイとそりの周囲には電飾を配置し、トナカイの足元には雪を模した綿をひいた。来館者はそりに乗ることができ、記念撮影を行えるようにした。



(中西 希)

## (13) Loupe ～ レンズの中の鉱物展

期 間：令和4年1月1日(土)～令和4年3月31日(水) 90日間

メディア：インスタグラム  
(@kmmh\_natural\_history)

担当学芸員：森 康

### 概 要

2022年は、国際鉱物学連合が中心となり、私たちの日常生活における鉱物の重要性について人々の認識を高める活動が世界各地で行なわれる。この活動は、ユネスコの支援を得て2021年12月に国連総会で決定された「持続可能な発展のための国際基礎科学年2022」(2022年6月30日～2023年6月30日)の一環である。これを事前周知することを主な目的として、当館が所蔵する鉱物標本の接写画像を毎日1点ずつ配信するオンライン企画展を行った。期間中の配信は92回(フィード90回、ストーリーズ2回)だった。リーチ(ほぼ閲覧者数に相当)は約1,100アカウント、その内訳は国内67%、海外33%だった。SNSによる企画展は、当館では初の試みであり、方向性のひとつである「24時間ミュージアム」の推進とともに、サイズやスペースなどの都合で展示されていない資料標本の活用方法として位置付けられる。

kmmh\_natural\_history ◯ ⊕ ≡

田

田



🏠 🔍 📷 🛒 🌐

(森 康)

## (14) アジア友好博物館交流事業第2期巡回展

### 「厠、トイレになる」

期 間：令和3年11月19日（金）  
～令和5年1月31日（火） 417日間（予定）  
※12/29～1/1は休館

会 場：東アジア交流コーナー

入場料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：宮元香織・上野晶子

#### 概 要

当館および大韓民国・仁川広域市立博物館ならびに中国大連市・旅順博物館がおこなってきた東アジア友好博物館交流事業巡回展は「衣・食・住」をテーマとしておこなっており、最終年度とは仁川広域市立博物館の「住」をテーマにした展覧会「厠、トイレになる」を当館ギャラリー館において開催する予定であった。しかしながらコロナウィルス感染症の世界的なまん延により、大韓民国への渡航が困難となったため、実物資料を用いての展覧会が実施できないこととなった。よって当館東アジア交流コーナーにおいて、標記のミニ展覧会を開催する運びとなった。

今回の展示では、仁川広域市立博物館から展示資料画像を借用し、当館で再構成して展示した。展示室の雰囲気を感じてもらえるよう、展示風景の写真を仁川広域市立博物館から借用し、日本語の解説文と音楽をつけて、動画として展示会場で放映した。合わせて展示資料画像のうち、紙製の資料を中心に古色をつけて制作し、再現資料として展示した。

また、これまでの交流事業の軌跡について新たにまとめ直し、パネルを使って紹介した。合わせて仁川広域市立博物館の劉東鉉館長と旅順博物館の王振芬館長による開催挨拶の動画を送っていただき、当館で翻訳し、日本語字幕をつけて会場内で放映した。

当初3月31日で終了予定であったが、会期を延長して令和5年1月31日まで開催予定である。

#### 主な展示内容

第1部では厠に神様がいらっしゃる時代と考えられていた時代の韓国や中国、日本の民話や民俗例などから、厠神について説明する。韓国の厠神は女性であり、台所の神ととても仲が悪かったとされるが、中国でも厠神は女性であり、台所などを含んだ家全体を守る神とされている。日本でも厠神は台所の神と近い関係にあり、さまざまな禁忌や風習が伝わっていることを画像などで紹介した。

第2部では、統一新羅時代の王宮のトイレ遺構（7世紀）を展示し、日本の古代のトイレとよく似た状況があることを紹介した。また、高麗時代の青磁便器（12～13世紀）などの展示から、糞尿が肥料として再利用され始めた時代の暮らしについて紹介した。

第3部ではトイレが家の外ではなく、中に入ってきた時代、主に19世紀以降の韓国における暮らしを紹介した。営団住宅（アパート）や文化住宅の建築によりトイレが屋内に入り、人々の衛生意識が高まったことによって、寄生虫・ハエや蚊などが経路する伝染病への予防意識も強まった。

最後はかつて家から遠く離れていた「厠」が家の中に入り、気づけば「トイレ」となり、寝室のすぐそばにまで迫ってきただけでなく、入浴や美容、休息、果ては展示までされる「複合文化空間」になったとまとめた。

（宮元香織）







東アジア交流コーナー



当館作成動画「厠、トイレになる」



東アジア交流事業巡回展の紹介



第1部 厠と台所は仲が悪い、第2部 昔の厠



第3部 厠、家の中に入ってくる



東アジア友好博物館 館長挨拶動画



# 13. その他の事業

## (1) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市の中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員派遣事業や展示交流事業などを継続的に実施している。現在の主要事業は隔年での「巡回展」の開催で、「東アジアの生活文化」を統一テーマとして、各館が所蔵する実物資料を中心に企画展を構成し、他の2館に巡回するものである。平成28年度に北九州が「衣」を、平成30年度は旅順博物館が「食」を担当して特別展を巡回開催した。

令和3年度の会議等実施当番館は旅順博物館であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため渡航が不可能となり、Web上にて7月7日(水)に実務者会議、10月27日(水)に館長会議を実施した。

実務者会議においては、実物資料を借用せず映像などで仁川広域市立博物館企画の「厠、トイレになる」展を紹介することについて、旅順、北九州それぞれが展示準備状況について報告した。また第3期交流の具体的内容について議論した。展示詳細については34~35ページに掲載している。

館長会議では旅順博と北九州市博が11月19日より各館において開催予定の仁川広域市立博物館企画の「厠、トイレになる」展の概要について説明した。合わせて第3期交流事業にともなう「東アジア友好博物館合意書」の文言や内容等について議論し、合意に達した。

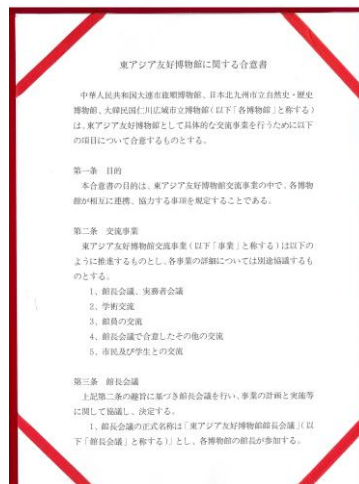
合意書については旅順博物館が準備し、郵送にて調印した。

その後、郵送にて「東アジア友好博物館合意書」に調印した。

第3期は海・港・船・島と交通・交流を共通テーマとして、調査研究や教育普及などの交流事業に取り組む予定である。



実務者会議の様子(当館会議室)



東アジア友好博物館合意書 表面



(宮元香織)



館長会議の様子・旅順博提供

(上から仁川博、旅順博、当館参加者写真)



## (2) ジオパーク活動推進事業

ジオパーク活動の普及に向けた取り組みや情報収集活動を継続したが、前年度に引き続きコロナ禍の状況で当初の計画を変更し、普及講座など当館主催イベントの中止や縮小、日本ジオパークネットワークの各大会など欠席やオンラインでの参加などの対応となった。その他本市の貴重な地質遺産の市民への周知を深めるため、魅力的なジオパーク普及講座の開発・実施やジオサイト・イベント予定を紹介するジオパークホームページの維持管理などを行った。また、日本ジオパークネットワーク主催の事業に参加し他地域との交流と情報収集につとめた。

### 主要事業と経過

#### 1) ジオパーク普及講座の実施（一般参加者合計 38 名）

室内講座 1 回

野外観察会（ジオツアー、ジオハイキング）5 回計画：2 回実施、1 回悪天候で中止、2 回新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### 2) ジオパークホームページの運営（<http://www.kitakyushu-geo.jp>）、アクセス解析の実施

#### 3) 日本ジオパークネットワーク事業等参加

新型コロナウイルス感染拡大のため中止や欠席：日本ジオパークネットワーク通常総会・九州ジオパーク連絡会

オンラインによる参加：日本ジオパーク全国大会（島根半島・宍道湖中海）

（太田泰弘・大橋智之）



ジオパークホームページ（<http://www.kitakyushu-geo.jp>）より

### (3) 北九州ミュージアムパーク創造事業 —東田エリアを中核とする文化×産業×観光—

当館は同じ東田地区にある環境ミュージアムや、市内の美術館、児童文化科学館などと相互連携して、文化庁「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」の助成を受けて、平成30年度から「東田ミュージアムパーク創造事業」を実施してきた。

令和2年度から上記の文化庁助成事業が「博物館等を中核とした文化クラスター推進事業」に移行したことに伴い、本事業も衣替えし、東田地区に建設される新科学館ならびに市内の企業ミュージアムを構成施設として、標記の事業を実施することとなった。旧事業で数えると4年目、新事業では2年目となる令和3年度は下記の事業を実施した。

なお、「東アジア文化都市北九州」のコア事業としてとして東田地区をメインに「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」が開催され、当館ギャラリー館において「環世界の遠近法 -時間と空間、計算機自然と芸術-」(4月29日～5月30日)が公開された。

当館における主催事業

#### (1) 東田三館連携企画展の開催(詳細は16～17ページに記載)

##### ① 企画展「北九州・産業都市の軌跡」開催(令和3年4月29日～5月30日)

地域計画の構成施設である当館と環境ミュージアムに加え、近隣商店街の閉店した菓子店舗(旧鶴屋)をサテライト会場として展覧会を開催した。

##### ② 世界遺産登録5周年記念+釜石市・北九州市連携企画展「釜石と八幡 鉄の都のものがたり」(令和3年10月15日～11月28日)

八幡製鐵所の開業120周年を記念して、当館と官営八幡製鐵所旧本事務所(世界遺産)を中心とし、釜石から八幡への近代製鐵の発展や製鐵所を軸とする両市の足跡や文化を明示する展覧会をおこなった。

#### (2) 収蔵資料等(コレクション) デジタルアーカイブ事業

博物館の収蔵資料ならびに地域の歴史資源について、北九州市の足跡や変遷を示す近代資料を中心としてデジタルアーカイブを構築し、公開をはかるもの。

令和3年度は博物館収蔵資料の写真撮影を行うとともに、古写真のデータベースを作成した。また、当館所蔵資料の情報を一部公開しているデータベースに資料写真と解説文の公開を開始した。

#### (3) 「いのちのたび博物館」展示空間の拡充事業

令和2年度までおこなってきた常設展における課題解決のための方法などを調査・検討し、展示リニューアルの根幹をなす展示等施設改修基本計画の策定を行い、同名の報告書をまとめた。

合わせて、展示資料の視認性や保全性の向上に努める「磨き上げ事業」として、覗きケースを3台購入した。

(宮元香織・大橋智之)

## 1 4. 教育普及活動

### (1) 博物館セカンドスクール事業

博物館が第2の学校(教室)として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、

- (1) 博物館への誘致事業
- (2) 学校教育支援事業
- (3) 家庭教育支援事業

の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館との結びつきを強めるための事業。

#### 1) 博物館への誘致事業

##### ○ 博物館への誘致活動

修学旅行等の団体客を誘致するため学校へのガイダンスDVD、パンフレット類の送付及び旅行会社へのPR活動

##### ○ 情報発信による博物館利用の案内

- ・情報誌「いのちのたび」を月1回、保育所(園)・幼稚園向けの情報誌を年2回発行
- ・博物館ホームページ、市政だより等の活用

#### 2) 学校教育支援事業

##### ○ 博物館活用資料の整備

各種ガイドブック、ワークシート、スタンプラリーシート、体験活動プログラム資料など

##### ○ 体験学習プログラムの提供

化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくり、化石発掘体験、勾玉づくり  
古代の鏡ミニモデルづくり

##### ○ 授業づくり支援

「博物館利用の手引き」の紹介、小学校への出前授業、「昔の道具調べ」「土地のつくりと変化」等の館内授業、ディスカバリーボックスの貸し出し等

##### ○ 職場体験学習、教員等社会体験研修の受け入れ等

##### ○ 環境アクティブ・ラーニング(北九州市教育委員会主催の市内小学校4年生を対象とした体験活動)

#### 3) 家庭教育支援事業

##### ○ いのちのたび子ども教室(12名を定員として前期6回、後期6回で学芸員による講話や体験学習を実施する。)

##### ○ 東田サマースクール(夏休み期間中に、北九州イノベーションギャラリー(KIGS)、環境ミュージアムと合同で全2期の体験学習を実施する。)

### 【令和3年度 学校関係利用状況】

#### ○ 誘致活動実績

誘致先	大分市	中津市	日田市	別府市	豊後高田市・杵築市・嘉穂郡	山口市・防府市	宇部市	下関市・山陽小野田市・門司区	周南市	萩市	合計
訪問社数	23	6	8	4	3	17	8	8	6	2	85

#### ○ 学校関係誘致実績

団体	保・幼	小学校	中学校	高・大	特別支援	合計
団体数	101	201	38	21	18	379
人数	3952	11513	2970	1422	401	20258

○ 学校教育支援事業実績

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	古代の鏡	合計
学校数	13	6	8	2	0	29
人数	717	203	349	170	0	1439

授業	昔の道具調べ	土地のつくり		環境アクティブ・ラーニング	合計
		館内授業	出前授業		
学校数	12	0	11	3	26
人数	435	0	674	163	1272

※ 土地のつくり（館内授業）...新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

○ 家庭教育支援事業実績

講座名	いのちのたび子ども教室	東田サマースクール
回数	前期2回 後期6回	0 (2期予定)
参加者数	78名	0 (各期12名 計24名予定)

※ 東田サマースクール...新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

【令和2年度 その他団体利用状況】

○ 学校教育支援事業実績

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	合計
団体数	2	0	0	1	3
人数	21	0	0	24	45

※ その他団体...市民センター、学童保育クラブ、子ども会 等

(2) 普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を13回開催した（野外観察会：1回、室内講座：9回、たいけん講座：3回、バスハイク：0回）。

種別	講座名	開催日	人数
室内講座	動物命名の世界を知ろう	4/24 (土)	2
室内講座	植物細密画を描いてみよう！	7/11 (日)	16
室内講座	植物細密画を描いてみよう！	10/24 (日)	20
室内講座	恐竜この1年	12/11 (土)	17
室内講座	食魚談義「魚を食べるはなし」	12/12 (日)	14
室内講座	恐竜すす払い	12/23 (木)	5
室内講座	ジオ講座「小さな化石にふれてみよう！」	1/9 (日)	20
室内講座	透明標本で骨のつき方をみてみよう！	1/23 (日)	11
室内講座	アンモナイトについて学ぼう！	2/13 (日)	17
たいけん講座	博物館のそばにやってくる野鳥を見てみよう	10/16 (日)	7
たいけん講座	レンジでもみじのしおりを作ろう	11/7 (日)	2
たいけん講座	ジオハイキング「平尾台の成り立ちを知る ジオハイキング」	3/27 (日)	10
野外観察会	ジオハイキング「恐竜時代の大地！皿倉山ウォーキング」	10/10 (日)	8

合計 149

## 2) 歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を実施し、理解につとめた。連続講座では、より深い学習を求める方々に向けた講座を行った。

種別	講座名	開催日	人数
室内講座	近世文書読み方講座	4/28 (水) ~3/23 (水)	477
歴史探訪	北九州の文化財を歩く【長野城】	4/18 (日)	8
歴史探訪	北九州の文化財を歩く【門司港の近代建築編】	11/14 (日)	12

合計 497

## 3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然学習園などにおいて自然の恵みと人々の歴史を考えるイベントを行った。

種別	講座名	開催日	人数
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう！	8/5 (木)	12

合計 12

## (3) 博物館実習

### 1) 自然史課博物館実習

学芸員養成過程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつを担当した。5日間と10日間を学生が選択。

1期：8月3日(火)～8月14日(土)、日曜・月曜休講の10日間

人数：8名(うち3名は5日間)

所属大学：京都橘大学1名、福山大学1名、山口大学1名、福岡大学2名、鹿児島大学1名、琉球大学2名

2期：8月24日(火)～9月4日(土)、日曜・月曜休講の10日間

人数：7名(うち3名は5日間)

所属大学：高知工科大学1名、北九州市立大学2名、九州産業大学1名、福岡大学3名

### 2) 歴史課博物館実習

令和3年度は、学芸員養成課程の学生を計3回受け入れ、それぞれ学芸員が分担して指導をおこなった。

① 期間：6月1日(火)～6月6日(日)6日間

人数：2名 所属大学：八洲学園大学2名

② 期間：8月24日(火)～8月29日(日)6日間

人数：8名[内、7名は8月24日(火)～8月28日(土)までの5日間]

所属大学：北九州市立大学3名、福岡大学1名、山口大学1名、梅光学院大学1名  
京都女子大学1名、八洲学園大学1名

③ 期間：11月30日(火)～12月2日(木)、12月7日(火)～12月9日(木)6日間

人数：2名 所属大学：八洲学園大学2名

#### (4) 職場体験・職員研修受け入れ

毎年、教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが研修生として働くことで、将来に向けての就業体験や社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行っている。今年度は夏季プレ・インターシップに係る体験活動研修を1件実施している。

期間 令和3年9月15日(水)～17日(金)

研修者 北九州市立大学 学生1名

- 内容
- 自然史研修(爬虫類・両生類、昆虫、魚類、甲殻類・貝類)
  - 歴史研修(近現代史、考古)
  - MT業務研修(博物館概要、体験プログラム 団体受付業務)

#### (5) 外部機関の依頼による講演など

小・中学校や高等学校・大学など学校教育機関、年長者大学や市民センターなど社会教育機関ほか、外部機関の依頼を受けて、学芸員が専門分野に関する講演などを行なった。

##### 1) 普及課

9件：世界自然遺産登録記念環境学習講師や、小笠原学術研究会、九州高等学校生徒理科研究発表大会記念講演などにおいて、生態系や生物の生態や保全に関する講演などを行なった。

##### 2) 自然史課

22件：市内の小学校や県内の高等学校、帆柱自然講演愛護会などのNPO団体をはじめ、北九州市立大学、岐阜大学、九州大学、九州国際大学などからの依頼を受け、自然史や博物館学に関する講義や講演を行なった(大学の非常勤講師・招聘教員を含む)。なお、昨年度に引き続き、ZOOMなどを用いたリモート対応も行なった。

##### 3) 歴史課

38件：市の新規採用職員研修のほか、北九州市年長者大学校(穴生学舎および周望学舎)、各区の生涯学習センター、各市民センター、北九州観光市民大学、北九州市立大学、九州共立大学、福岡県立若松高等学校(定時制)、北九州市立北九州高等学校、公立学校共済組合福岡支部など(市内)、田川市(市外)において、北九州市の歴史と文化、明治日本の産業革命遺産や日本遺産(関門海峡、長崎街道)、博物館学芸員の仕事など様々なテーマで講演などをおこなった。

#### (6) 団体・委員会への就任依頼

##### 1) 普及課

伊澤雅子

- ・環境省希少野生動植物種保存推進員(環境省)
- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域科学委員会委員(環境省)
- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域科学委員会沖縄ワーキンググループ委員(環境省)
- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島世界自然遺産地域令和3年度ロードキル対策タスクフォース会議委員
- ・オガサワラオオコウモリ保護増殖検討会委員(環境省)
- ・ツシマヤマネコ保護増殖検討委員会(環境省)
- ・ツシマヤマネコ生息域内保全委員会委員(環境省)
- ・ツシマヤマネコ生息状況モニタリング評価会議委員(環境省)
- ・ツシマヤマネコファウンダー候補導入検討ワーキンググループ委員(環境省)
- ・イリオモテヤマネコ保護増殖検討会委員(環境省)

- ・イリオモテヤマネコワーキンググループ委員（環境省）
- ・福岡県希少野生生物保護検討会議委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物保護検討会議哺乳類分科会委員（福岡県環境部）
- ・福岡県環境審議会委員（福岡県環境部）
- ・福岡県環境審議会公園鳥獣部会委員長（福岡県環境部）
- ・福岡県環境審議会環境総合ビジョン専門委員会委員（福岡県環境部）
- ・北九州市動物の愛護及び管理に関するあり方検討会委員長（北九州市保健福祉局保健衛生部）
- ・沖縄県土地開発審査会委員（沖縄県企画部）
- ・沖縄県文化財保護審議会委員（沖縄県教育庁）
- ・沖縄県動物愛護管理推進計画懇話会委員（沖縄県自然保護課）
- ・ノイヌ・ノネコ対策事業検討委員会委員（沖縄県自然保護課）
- ・イリオモテヤマネコ交通事故防止対策検討会委員（沖縄県自然保護課）
- ・沖縄県観光審議会委員（沖縄県文化観光スポーツ部）
- ・日本哺乳類学会理事（日本哺乳類学会）
- ・哺乳類保護管理委員会レッドデータ作業部会委員（日本哺乳類学会）
- ・沖縄生物学会会長（沖縄生物学会）

## 2) 自然史課

### 真鍋 徹

- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物検討会議植物分科会委員（福岡県環境部）
- ・広谷湿原保全方針検討委員会委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少種保護条例広報事業委託業務選定委員会委員（福岡県環境部）
- ・北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議委員（北九州市環境局）
- ・小石原川ダムモニタリング部会委員（水資源機構）
- ・小石原川ダムモニタリング部会委員クマタカ保全検討部会（水資源機構）
- ・日本景観生態学会幹事長（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会編集委員（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会生態系インフラ活用検討委員（日本景観生態学会）
- ・西日本自然史系博物館ネットワーク理事（西日本自然史系博物館ネットワーク）

### 森 康

- ・日本鉱物科学会博物館委員会委員（日本鉱物学会）

### 御前明洋

- ・県の石出版プロジェクトチーム「福岡県の石」まとめ役（日本地質学会）

### 大橋智之

- ・石川県白山市手取層群化石調査団員（白山市）
- ・日本古生物学会欧文誌編集幹事（日本古生物学会）

### 太田泰弘

- ・平尾台自然観察センター改修基本設計に係る意見交換会委員（福岡県環境部）
- ・日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟学会洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
- ・日本地質学会代議員（日本地質学会・地方区）
- ・日本地質学会生涯教育委員会委員（日本地質学会）
- ・日本地質学会古生物部会・世話人（日本地質学会）

- ・日本地質学会西日本支部幹事（日本地質学会西日本支部）
- ・福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）

#### 蓑島悠介

- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・国道 201 号香春町～行橋市環境影響評価技術検討委員会委員（国土交通省九州地方整備局）
- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク）
- ・日本甲虫学会庶務幹事（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会評議員（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会和文誌編集委員会（日本甲虫学会）
- ・日本昆虫学会英文誌編集委員会 Associate Editor(日本昆虫学会)

#### 江頭幸士郎

- ・希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・環境省第 5 次レッドリスト・レッドデータブック評価者（環境省）
- ・福岡県希少野生生物検討会議 検討会委員兼爬虫類・両生類分科会委員（福岡県環境部）
- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・国道 201 号香春町～行橋市環境影響評価技術検討委員会委員（国土交通省九州地方整備局）
- ・一般県道山口原田線改良に伴う動植物現地調査に係るアドバイザー（福岡県那珂県土整備事務所）
- ・宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会（宇佐市教育委員会）
- ・日本爬虫両棲類学会英文誌編集委員（日本爬虫両棲類学会）
- ・九州両生爬虫類研究会運営委員（九州両生爬虫類研究会）

#### 日比野友亮

- ・福岡県希少野生生物検討会議魚類・甲殻類分科会委員（福岡県環境部）
- ・日本魚類学会編集委員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会代議員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会若手の会会長（日本魚類学会）
- ・標準和名検討委員（日本魚類学会）
- ・日本動物分類学会和文誌編集委員（日本動物分類学会）
- ・ニッチェ・ライフ編集委員（ニッチェ・ライフ編集委員会）

#### 中原 亨

- ・鳥類・猛禽類調査技術指導（国土交通省福岡国道事務所）
- ・猛禽類現地調査指導（国土交通省九州地方整備局）
- ・福岡県希少野生生物検討会議鳥類分科会委員（福岡県環境部）
- ・日本生態学会九州地区会福岡県委員（日本生態学会）
- ・日本鳥学会企画委員（日本鳥学会）
- ・2021 年度日本鳥学会ポスター賞審査委員会委員長（日本鳥学会）
- ・日本鳥学会英文誌編集委員（日本鳥学会）
- ・日本生態学会企画委員高校生ポスター部会員（日本生態学会）
- ・第 69 回日本生態学会福岡大会実行委員（日本生態学会）

#### 中西 希

- ・令和 3 年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会委員（環境省）
- ・イリオモテヤマネコ個体数推定に係る会議委員（環境省）
- ・福岡県希少野生生物検討会議哺乳類分科会委員（福岡県環境部）
- ・令和 3 年度マングース対策事業検討委員会委員（沖縄県環境部）
- ・令和 3 年度外来種対策事業（哺乳類対策）作業部会委員（沖縄県環境部）
- ・西表島の観光管理計画改定のための作業部会委員（沖縄県環境部）



- ・特別天然記念物カモシカ食害対策事業に係るカモシカ通常調査現地調査員（大分県教育委員会）
- ・北九州市人と動物の共生社会推進懇話会委員（北九州市保健福祉局）
- ・第12期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市環境局）
- ・竹富町西表島エコツーリズム推進協議会委員（竹富町）
- ・日本生態学会大会企画委員会ポスター部会員（日本生態学会）
- ・日本哺乳類学会英文誌編集委員会委員（日本哺乳類学会）
- ・日本哺乳類学会代議員（日本哺乳類学会）

#### 竹下文雄

- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク）
- ・第69回日本生態学会大会ポスター発表（行動）審査員（日本生態学会）
- ・第69回日本生態学会大会高校生ポスター発表審査員（日本生態学会）
- ・日本ベントス学会英文誌編集委員（日本ベントス学会）

### 3) 歴史課

#### 日比野利信

- ・福岡市総合図書館文書資料収集審査委員（福岡市教育委員会）
- ・九州史学研究会運営委員・編集委員・歴史資源部会長（九州史学研究会）

#### 宮元香織

- ・飯塚市文化財保存活用推進委員会専門部会員（飯塚市教育委員会）
- ・佐賀県文化財保護審議会委員（佐賀県）
- ・宗像市文化財保護審議会委員（宗像市教育委員会）

#### 守友 隆

- ・福岡市史編集委員会近世専門部会調査委員（福岡市）
- ・新修宗像市史近世部会編集委員（宗像市）
- ・九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門学外研究員（九州大学）

#### 中西義昌

- ・日本建築学会九州支部歴史意匠委員（日本建築学会）

## (7) 市の関連事業・施設に対する協力など

当館は「知の集積施設」（「理念と方向性」）として、本市の施策や事業に関して、市役所や区役所の担当部局に対し、専門的・学術的見地から様々な形で協力を行っている。令和3年度に協力した主な事業は以下のとおりである。

### 1) 旧安川邸利活用事業

主管：建設局緑政課

内容：北九州を代表する企業家・安川敬一郎（1849-934）と3代の安川家当主が居住した住宅（北九州市指定文化財）を整備し、令和4年4月1日に一般公開するに際し、事業全般について助言を行った。また安川敬一郎が受け取った手紙2通を出品し、定期的に展示替えしながら紹介している。

### 2) 小倉城庭園の常設展改装

主管：産業経済局観光課

内容：北九州市立小倉城庭園の常設展改装において、展示の内容や解説（グラフィック）の監修を行った。また一部の歴史資料について、写真画像データを提供した。

### 3) 学校と連携した、日本遺産「砂糖文化を広めた長崎街道」の「シュガーロード講座」

主管：産業経済局観光課

内容：観光課が教育委員会と協力して、日本遺産認定を機に、菓子や砂糖など学校児童にとって身近なものの歴史を学ぶことを通じて、長崎街道など地域の歴史や文化を知る機会を作り、シ

ビックプライドの醸成を図ることを目的に「シュガーロード講座」を実施した。その際に、当館は講座の内容を合同で検討し、市立中学校 2 校（白金中学校・木屋瀬中学校）で「シュガーロードと菓子文化について」と題する講義を行った。

## 15. 博物館ボランティア（シーダー）の活動

### （1）シーダー組織の活動

#### 1) 人数（令和4年3月31日現在）

- ・ 登録人数 53名 [男性 21名 女性 25名]  
20代（1名） 30代（0名） 40代（0名） 50代（4名）  
60代（13名） 70代（20名） 80代（8名） 90代（0名）

#### 2) 活動内容（本来の活動内容）

##### [展示案内グループ]

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

##### [講座補助グループ]

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子ども教室・東田サマースクールおよびMTが行う授業（環境アクティブラーニング、昔の道具調べ）の補助を行う。

##### [演示グループ]

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、九州の民話を抜粋した「手作り紙芝居」などの読み聞かせ、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

#### 3) 活動実績

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策を受け、1年間の活動休止となった。その中で、県内の蔓延防止重点措置が発令されていない期間は、希望者による自主研修を継続した。

1年間の延べ研修者数 88人

#### 4) 研修

・ シーダーとしての資質向上を目指した、月1回の学芸員との「シーダーゼミ」も令和3年度は、計画・活動共に実施できなかった。

### （2）資料整理補助グループ

#### （2-1）植物さく葉標本整理補助グループ

##### 1) 登録人数（令和4年3月31日現在）

6名

##### 2) 活動実績

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度は活動を休止した。

#### （2-2）小倉織復元補助ボランティア

##### 1) 登録人数（令和4年3月31日現在）

15名

##### 2) 活動実績

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、令和3年度は活動を休止した。

## 16. 自然史友の会の活動

### 目的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

### 会員数

604名（令和4年3月31日現在、以下同）

### 役員等

会長：小林繁、副会長：新海義治・佐藤政弘、幹事長：新海義治（兼任）、事業担当幹事9名、出版担当幹事8名、庶務会計担当幹事2名、会計監査2名、評議員35名、顧問14名

### 年会費

正会員：大人3,000円、小・中・高生1,000円、家族4,000円。賛助会員：10,000円

### 活動内容

- (1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー20～30ページ前後）  
第154号（令和3年11月19日発行）：「ボタ山で採取した植物化石」等7件の報告と書籍紹介1件  
第155号（令和4年3月10日発行）：「筑後市のアサザ個体群（県の水路）の推移」等4件の報告と研究発表会要旨集
- (2) 研究部会の活動：例会の実施（計11回）  
地質鉱物（事務局会8回）、化石（例会実施せず）、植物（例会実施せず）、昆虫（例会実施せず）、水生動物（例会実施せず）、両生・爬虫類（事務局会ふくめ3回）、鳥類（例会実施せず）
- (3) 友の会野外観察会の実施  
千石峡（宮若市）にて実施を予定していたが、感染症拡大予防のために中止。
- (4) 博物館との共催の野外観察会の実施  
野外観察会・夏休み教室を6回計画していたが、感染症拡大予防のために中止。
- (5) 市民向け室内講座の実施  
「植物細密画を描いてみよう！」  
第1回7月12日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者23名。  
第2回10月24日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者22名。
- (6) 会員向け室内講座の実施  
本年度は実施せず。
- (7) 研究発表会の実施  
5月29日（土）～6月11日（金）、HP上でオンライン研究発表会を実施。「スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の肥料としての利用可能性」等6件の発表。
- (8) 会議等の実施  
総会（文書審議1回）、評議員会（文書審議1回）、三役・各担当幹事会代表会（2回）、出版担当幹事会（4回）、事業担当幹事会（1回）、庶務会計担当幹事会（1回）。

## 17. 歴史友の会の活動

### 目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、古代史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数：120名（令和4年3月31日現在）

### 役員等

会長：永尾正剛、顧問：野口委有、副会長岩井勝治・渡辺善夫、会計3名、会計監査2名、  
会員管理1名、講座運営担当13名、遺跡見学運営担当11名、広報・会誌編集5名

年会費：正会員：5,000円 賛助会員：10,000円以上 臨時会員：実費（資料代）500円

### 活動内容（令和3年度）

(1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）

(2) 講演会 年7回開催 参加者総計 493名

※緊急事態措置により、4回中止、1回は1月に延期して開催した。

日時	講演タイトル	講師	人数
4月10日（土）	日本遺産「砂糖文化を広めた長崎街道」	北九州市立大学文学部教授 八百啓介先生	72
5月8日（土）	豊後府内と大友館	大分市教育委員会文化財課長 坪根伸也先生	中止
6月12日（土）	上野焼の系譜 八代焼～伝統の技と美～	元八代市立博物館 福原 透先生	中止
7月10日（土）	行橋長井浜遺跡の調査成果について	行橋市教育委員会 笠置拓也先生	63
	奈良時代のみやこ町について	みやこ町歴史民俗博物館 井上信隆先生	
8月21日（土）	磐井の乱の実態を探る—甕依姫のまつりと磐井の乱、そして葛子と糟屋の屯倉—	福岡大学教授 桃崎祐輔先生	中止
9月11日（土）	弥生時代文字文化の探究	国学院大学客員教授 柳田康雄先生	1月に延期
10月9日（土）	港町複合体としての関門海峡	九州大学大学院比較社会文化研究院教授 伊藤幸司先生	78
	豊前長野氏について	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 佐藤凌成	
11月13日（土）	筑豊炭田と山本作兵衛	田川市石炭・歴史博物館 福本寛先生	78
	特別展「鉄都の系譜」関連講演会	北九州市立自然史・歴史博物館 歴史課長 日比野 利信	
12月11日（土）	肥前名護屋の実相と歴史的意義 —城・陣・軍港都市—	佐賀大学全学教育機構教授 宮武正登先生	76
1月15日（土）	弥生時代文字文化の探究	国学院大学客員教授 柳田康雄先生	62
2月19日（土）	家老の忠義-細川家家老松井康之と興長-	八代市立博物館 林千寿先生	中止
3月12日（土）	国際色豊かな馬具・船原古墳	古賀市教育委員会文化課主事 西幸子先生	64

(3) 史跡めぐり 年4回開催、但し、臨時休館に伴い3回中止。参加者総計 30名

日時	場所	人数
6月6日（日）	史跡巡り バスハイク熊本方面	中止
10月1日（金）～10月3日（日）	関西方面史跡見学会 滋賀県・比叡山延暦寺	中止
11月28日（日）	史跡めぐりバスハイク 久留米方面	30
2月27日（日）	史跡巡り バスハイク 田川・嘉穂方面	中止

(中西 義昌)

## 18. 資料の収集保存状況

### (1) 自然史課

#### 1) 令和3年度資料登録状況

令和3年度の自然史資料の登録（デジタルデータベース化）数は以下のとおりである。

分野	購入		委託製作		寄贈		寄託		採集		交換		その他		合計			
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数		
生物系	無脊椎動物	IvR	0	0	0	0	199	8,367	0	0	0	0	0	0	199	8,367		
	脊椎動物	VR	0	0	2	2	343	998	0	0	381	391	0	0	8	8	734	1,399
	昆虫	IR	503	503	21	21	25	25	0	0	0	0	0	0	0	0	549	549
	種子植物	GR	0	0	0	0	550	559	0	0	27	36	0	0	0	0	577	595
	シダ植物	AR	444	444	0	0	40	43	0	0	0	0	0	0	0	0	484	487
	コケ類	BR	0	0	0	0	137	137	0	0	0	0	0	0	0	0	137	137
	小計		947	947	23	23	1,294	10,129	0	0	408	427	0	0	8	8	2,680	11,534
地学系	無脊椎動物	IvP	0	0	0	0	128	205	0	0	6	6	0	0	0	0	134	211
	脊椎動物	VP	1	1	0	0	28	28	0	0	4	4	0	0	0	0	33	33
	昆虫	IP	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
	顕花植物	GP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	隠花植物	AP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岩石	L	0	0	0	0	236	265	28	30	1	1	0	0	0	0	265	296
	鉱物	M	0	0	0	0	312	364	2	3	0	0	0	0	0	0	314	367
小計		1	1	0	0	704	862	30	33	12	12	0	0	0	0	747	908	
その他	その他	O	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		948	948	23	23	1,998	10,991	30	33	420	439	0	0	8	8	3,427	12,442	

#### 2) 令和3年度資料収集状況

令和3年度の自然史資料の収集点数および主な収集資料は以下のとおりである。

分野	購入	委託製作	寄贈	寄託	交換	採集	その他	合計
生物系	甲殻類・貝類	0	1	8,367	0	0	22	8,390
	昆虫類等	27	0	416	0	0	200	643
	魚類	0	0	60	0	0	222	282
	両生類	0	0	1	0	0	328	329
	爬虫類	0	0	5	0	0	165	170
	鳥類	0	0	111	0	0	33	144
	哺乳類	0	0	74	0	0	8	87
	種子植物	0	0	78	0	0	36	114
	シダ植物	0	0	56	0	0	0	56
	コケ植物	0	0	106	0	0	0	106
小計	27	1	9,274	0	0	1,014	5	10,321
地学系	岩石	0	0	70	0	0	0	70
	鉱物	0	0	42	0	0	0	42
	古脊椎動物	1	0	2	0	0	4	7
	古無脊椎動物(昆虫以外)	0	0	249	0	0	1	250
	植物	0	0	4,325	0	0	0	4,325
小計	1	0	4,688	0	0	5	0	4,694
合計	28	1	13,962	0	0	1,019	5	15,015

<主な購入・委託製作資料>

- ・ハクセンシオマネキ拡大模型（1点）
- ・コガネムシ類（27点）
- ・ヤマガラ等の本剥製（14点）
- ・トラ交連骨格標本（1点）
- ・エレモテリウム全身復元骨格レプリカ（1点）

<主な寄贈資料>

- ・クワガタムシタイプ標本（ホロタイプ1点）
- ・蝶類タイプ標本（ホロタイプ5点、パラタイプ3点）
- ・鱗翅目標本（407点）（ホロタイプ113点、パラタイプ294点を含む）
- ・チュウゴクオオサンショウウオ（1点）
- ・トラ剥製（1点）
- ・動物園等で死亡した脊椎動物（約60点）
- ・福岡県産を中心としたコケ植物乾燥標本（106点）
- ・スペイン産種子植物さく葉標本（4点）
- ・福岡県産珪化木（4,184点）
- ・福岡県産植物化石（141点）

<主な採集資料>

- ・北部九州の甲虫類標本（200点）
- ・ダンジョヒバカリ（2点）

## (2) 歴史課

### 1) 令和3年度資料収集状況

令和3年度の歴史資料の受入点数は以下のとおりである。

	令和2年度末累計	寄贈	新規寄託	購入	合計	令和3年度末累計
歴史系	33,647	67	0	4	71	33,718
考古系	50,517	929	0	0	929	51,446
計	84,164	996	0	4	1,000	85,164

### 2) 令和3年度収集資料の概要

折尾駅周辺の高架化事業に伴って、駅舎の全面改修がおこなわれた際、旧駅舎（大正5・1916年完成）の部材の一部12点と図面等2点について、九州旅客鉄道株式会社より寄贈を受けた。これらについては、令和4年度の折尾駅周辺の高架化完了と日本の鉄道150年を記念した企画展で公開し、さらに今後の活用を図っていききたい。

令和3年度は大量の考古資料の寄贈を受けた。いずれも個人の採集資料であるが、いまとなつては現地で採集できない貴重な資料群と言える。特に若松区のこうしんのう古墳群出土資料については、当館所蔵の同古墳群出土資料と合わせることによって、その全体像を考えることができる。

小倉南区にあった東谷郷土資料館は昭和55（1980）年に農家の旧家屋の提供を受け、地元の農具や調度品などを収集・公開してきた施設である。今回同家屋が解体され、資料館が移転することになったが、それに合わせて、当館は所蔵資料の調査をおこない、一部を受け入れたものである。豊前小倉織に関わる資料も含まれ、地域の織物の実像を知ることのできる貴重な資料である。それ以外の資料の多くは新資料館に引き継がれており、地元の要望を受け、今後その保存と活用について、積極的に協力していききたい。

田川市の所蔵作品や関係資料がユネスコの「世界の記憶」（旧「世界記憶遺産」）に認定されている山本作兵衛の炭坑記録画について、当博物館は膨大な作品群のなかでも最大の作品2点（前身の歴史博物館開館の際の委嘱作品）をはじめ、9点を所蔵・受託しているが、今回新たに作品1点の寄贈を受けた。描かれるのはよく知られた「先山と後山」（坑内で石炭を掘り出す男女のペア）だが、前述の委嘱作品のうち1点がしゃがんで石炭を掘り出しているのに対し、今回の寄贈作品は立って掘り出している様子を描いていて、両作品を合わせて、かつての炭坑労働とその多様なありようを実感的に知ることができる。

このほかにも様々な資料の寄贈を受けた。いずれも今後の活用の方法や可能性を探っていききたい。

購入資料は4点で、1点は中世の古文書、3点は下関市の地図である。

中世の古文書は天文18（1549）年2月26日の日付を持つ「貫助二郎宛大内義隆官途吹挙状」である。北九州地域の室町時代は豊前国守護を務めた「大内氏の時代」と言ってよく、この吹挙状が発給された天文18年は大内氏の最盛期に当たる。受給者の「貫助二郎」は豊前国規矩郡貫荘（現・小倉南区貫周辺）を本貫地とする国人（地域に根付いて活動する武士）である。貫荘はもと宇佐宮領であるが、室町時代初めから貫氏が支配を開始した。貫氏は大内氏の傘下に入って支配の安定を図った。本状はそのような大内氏と貫氏の関係を示し、北九州地域の中世史を考える際に不可欠なものである。

北九州市は関門海峡をはさんで下関市と密接な関係を築いてきた。両市を合わせた関門海峡地域は「海港都市」「海峡都市」ということもできる。したがって下関市に関する必要な歴史資料を収集することは重要な意味を持つが、これまで積極的におこなうことは少なかった。今回購入した近代の下関市の地図は海港都市の一角をなす下関市の景観の変遷や関連施設の立地などを明らかにするうえでの基本資料となる。

このほかにもレスキューの機会も大切にしつつ、様々な資料の受け入れとその準備を進めている。資料群台帳の整備と各資料群及び横断的なデータベースやデジタルアーカイブの構築などにも取り組んでおり、引き続き重点目標として、スピードアップを含めて進めていきたい。

（日比野 利信）



## 19. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	目的	閲覧者	所属団体名	人数	閲覧日
1	自然史	シーボルト標本鳥類・哺乳類写真	当館所有の左記資料の整理	武石全慈	名誉館員	1	R3.4.1-R4.3.31
2	自然史	関門層群産脊椎動物化石	関門層群産脊椎動物化石の記載（卒業研究および修士研究）	河井隆寛・柳原彩里・是永壮登・平尾朋也・田上響	福岡大学理学部	5	R3.4.1-R4.3.31
3	自然史	魚類化石	魚類化石の研究	藪本美孝	名誉館員	1	R3.4.1-R3.7.31
4	自然史	珍珠産魚類化石	含化石コンクリーションの形成に関する研究	村宮悠介 (1), 三上智之 (2), 吉田英一 (3)	深田地質研究所 (1), 東京大学 (2), 名古屋大学博物館 (3)	3	R3.4.7-R3.4.8
5	自然史	交連骨格 (カバ、ニタリクジラ、マッコウクジラ、プロントテリウム)、全身骨格レプリカ (アンプロケタス、パレオパラドキシア)	哺乳類のロコモーションと骨格との関係の解析など	和田直巳	山口大学	3	R3.4.8
6	自然史	貝類資料	貝類標本の収蔵方法などの調査	榎本 敬	倉敷市立自然史博物館友の会	1	R3.4.8
7	自然史	魚類標本	分類学的研究	小林大純	琉球大学熱帯生物圏研究センター	1	R3.4.14
8	自然史	エゴノキ植栽木4個体	エゴノキの生態学的研究	有吉諒真・傳田哲郎	琉球大学大学院理工学研究科	2	R3.4.18
9	自然史	ウミガメ類漂着死体	ウミガメ類漂着死体内のマイクロプラスチック調査	中田晴彦	熊本大学大学院先端科学研究部	3	R3.7.1-R3.7.2
10	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	山根正気	元鹿児島大学博物館館長	1	R3.7.2-R3.7.5
11	自然史	ダンジョヒバカリ標本	ダンジョヒバカリ標本の閲覧・撮影	関 慎太郎	京都水族館	1	R3.8.21
12	自然史	ダンジョヒバカリ標本	ダンジョヒバカリ標本の閲覧・撮影	前田 憲男	日本自然科学写真協会	1	R3.8.26
13	自然史	魚類化石	魚類化石の研究	藪本美孝	名誉館員	1	R3.9.1-R3.12.31
14	自然史	ダンジョヒバカリ標本	ダンジョヒバカリ標本の閲覧・撮影	越智慎平	-	1	R3.9.9
15	自然史	ダンジョヒバカリ標本	ダンジョヒバカリ標本の閲覧・撮影	森 哲	京都大学理学研究科	1	R3.9.11
16	自然史	淡水魚類標本	分類学的研究	小林大純	琉球大学熱帯生態圏研究センター	1	R3.10.6
17	自然史	キュウシュウジカ頭蓋・主要四肢骨	キュウシュウジカ頭蓋・主要四肢骨のデータ収集	富岡直人 (学部生)・富永祐行 (指導教官)	岡山理科大学生物地球学部	2	R3.10.23
18	自然史	カニ類液浸標本	カニ類の進行方向と形態との関連性の研究	谷口隼也 (M1)・井上翼 (4年生)	長崎大学大学院水産・環境化学総合研究科、同大水産学部水産学科	2	R3.10.25-R3.11.1
19	自然史	クモ類液浸標本	クモ類標本の閲覧・研究	野口奨悟	九州大学農学部生物資源環境科学科	1	R3.10.28
20	自然史	貝類標本 (申請者寄贈標本)	申請者寄贈標本の分類学的調査	氏野優	-	1	R3.12.12
21	自然史	三宅文庫 (調査研究に係る書籍等)	「研究史」の研究	佐藤崇範	琉球大学島嶼地域科学研究所	1	R3.12.14-R3.12.16
22	自然史	植物さく葉標本 (ラン科など)	福岡県内の標本の収集状況の確認	中村康則	-	1	R3.12.28
23	自然史	魚類化石	魚類化石の研究	藪本美孝	名誉館員	1	R4.1.2-R4.3.31
24	自然史	アオドウガネ標本	アオドウガネ標本の観察	福谷愉海	-	1	R4.2.11
25	自然史	美祢層群産とクラト層産昆虫化石	美祢層群産とクラト層産昆虫化石の分類学的研究	大山望	九州大学理学部地球惑星科学科	1	R4.2.15-R4.2.18
26	自然史	柳田文庫 (地質学関係文献)	腕足類化石研究に関連する文献調査	松隈友哉	九州大学理学部地球惑星科学科	1	R4.2.15-R4.2.18
27	自然史	北九州の昆虫 (昆虫分野文献)	昆虫の研究	井早芳郎	-	1	R4.3.3
28	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	山根正気	元鹿児島大学博物館館長	1	R4.3.23-R4.3.26
29	自然史	アリ類標本	アリ類標本の整理および研究	立田晴記	九州大学理学部	1	R4.3.26
30	自然史	トサシミズサンショウウオ標本	標本の閲覧・撮影	越智慎平	-	1	R4.3.31
31	自然史	淡水魚類液浸標本	福岡県産魚類の分布記録調査	潮上太郎	九州大学農学部	1	R4.3.31
1	歴史	園田浦城出土陶磁器類	遺跡出土の喫茶関係資料の集成	遠藤啓介	九州歴史資料館	1	R3.4.27-4.28

2	歴史	広寿山福聚寺所蔵「韋駄天像」「華光菩薩像」「達磨大師像」3幅	九州国立博物館特集展示「范道生」展図録掲載用写真撮影のため	楠井隆志	九州国立博物館	2	R3.5.20
3	歴史	清流話1冊、御当家正伝記1冊、源忠真公年譜4冊	西山宗因と小笠原忠真の連歌にかんする研究	尾崎千佳	山口大学人文学部准教授	1	R3.7.2
4	歴史	御座1号墳出土三角縁神獸鏡、伝・三本木古墳出土三角縁神獸鏡（寄託品）各1面	三角縁神獸鏡の製作技術研究	宇野隆志 清水康二	奈良県立橿原考古学研究所	2	R3.8.11
5	歴史	小笠原文書 278～287	小笠原氏の蔵書に関する研究のため	渡瀬淳子	北九州市立大学文学部准教授	1	R3.8.31-9.3

## 20. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出期間／申請日
1	自然史	美称・豊浦層産昆虫化石	4	大山望（九州大学理学府博士課程）	昆虫化石の分類学的研究	R3.4.1-R4.3.31
2	自然史	玖珠盆地産コンクリーションの未登録標本3点、同登録標本1点	4	三上智之（東京大学大学院理学系研究科）	魚化石を内包するコンクリーションの成因解析	R3.4.19-R5.3.31
3	自然史	書籍「特別天然記念物カモシカの保護管理に関する基礎的研究 岐阜・長野両県の捕獲個体数の分析（文化庁、1998）」および「カモシカの生態と保護に関する基礎研究 昭和62年度科学研究費補助金研究成果報告書（1998年）」	2	下司満里子（長浜市立長浜図書館）		R3.4.26-R3.5.30
4	自然史	台湾産ハムシ類 <i>Furusawaia yosonis</i> など（木元コレクション）	30	Chi-Feng Lee（台湾農業試験所）	ハムシ類の分類学的研究	R3.5.25-R4.5.25
5	自然史	ヤマガラ（斃死体）	1	上田恵介（立教大学名誉教授）	ヤマガラの生活史特性（植物由来の有毒成分を用いて化学防御を行っているという仮説を検討する）	R3.6.?-R3.8.31
6	自然史	アラリハ産昆虫化石（タガメ：2、タイコウチ科の一種：1）	3	豊橋市自然博物館	令和3年度特別展「地球は昆虫であふれている」での展示	R3.6.1-R3.9.30
7	自然史	キュウシュウツノガニ	4	大土直哉（東京大学大気海洋研究所）	キュウシュウツノガニの分類学的再検討	R3.6.9-R3.12.1
8	自然史	シオニサウルス頭骨復元模型	1	福井県立恐竜博物館	令和3年度特別展「海竜～恐竜時代の海の猛者たち～」での利用	R3.6.24-R4.1.31
9	自然史	メダネウラ生態復元模型	1	名古屋科学館	特別展「昆虫」での使用	R3.6.25-R3.10.20
10	自然史	チューゼンゴブテリス産状レプリカ1、ズンガリプテリス地上姿勢復元レプリカ1、カウディプテリクス復元骨格レプリカ1、ペラゴルニス科上腕骨実物化石1	4	佐賀県立宇宙科学館	令和3年度夏の特別企画展「翼王展～大空を支配した生物たち～」での展示	R3.6.28-R3.9.3
11	自然史	オオカズナギの筋肉(譲渡)	2	佐土哲也（千葉県立中央博物館）	魚類データベース構築（DNA利用）のため	R3.6.30
12	自然史	ニシヤモリ生体	2	城野鉄平（広島修道大学人間環境学部）	進化的研究のための行動実験・観察	R3.8.11-R4.8.10
13	自然史	ツチガエル標本（福岡県産10点、長崎県産1点）	11	島田知彦（愛知教育大学）	進化的研究のための遺伝子解析および形態計測	R3.8.11-R4.8.10
14	自然史	ニホントカゲ（男女群島産）	3	岡本卓（京都大学理学部）	進化的研究のための遺伝子解析および形態計測	R3.8.17-R4.8.17
15	自然史	台湾産ハムシ科ムナグロツヤハムシ属（木元コレクション）	61	Chi-Feng Lee（台湾農業試験場）	ムナグロツヤハムシ属の研究	R3.9.1-R4.9.1
16	自然史	男女群島産土壌動物（未整理分）	2	中野隆文（京都大学）	分類学的研究	R3.9.13-R4.9.30
17	自然史	トゲクマムシ拡大模型	1	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	第82回企画展「こけティッシュ 苔ニューワールド！—地球を包むミクロの森」での使用	R3.9.19-R4.2.27
18	自然史	大陸産魚類標本筋肉（提供）：ニゴイ8点、ズナガニゴイ1点、ナマズ1点	10	田端諒一（琵琶湖博物館）	系統学的研究（DNA解析用）	R3.9.20
19	自然史	アフリカゾウ頭骨	1	北九州市立美術館	「コレクション展II 特集 動物たちのいるところ」での展示	R3.10-R4.1
20	自然史	シロマダラの組織サンプル	6	福山伊吹（京都大学大学院）	新科学的研究のためのDNA解析	R3.10.6-R4.10.4
21	自然史	ヘイケガニ（三宅コレクション）	8	成瀬貫（琉球大学熱帯生物圏研究センター）	ヘイケガニ類の分類学的再検討	R3.10.25-R4.12.31
22	自然史	コリトサウルス実物化石（上顎骨1、歯骨1）	2	脇水徳之（東京大学大学院理学系研究科）	化石爬虫類の頭骨内部携帯の比較研究	R3.12.1-R4.1.31
23	自然史	ニホンカワウソ1、ニホンジカ2、ヤマネ1、イノシシ1、アナグマ1、タヌキ1、カヤネズミ1、ハタネズミ1、アカネズミ1、ヒメネズミ1、ハツカネズミ1、クマネズミ1、カワネズミ1、ヒミズ1、キクガシラコウモリ1、コキクガシラコウモリ1、アブラコウモリ1	18	佐賀県立博物館	令和3年度テーマ展「しってる？佐賀のいきもの展-動物植物と化石-」での展示	R3.12.6-R4.5.15
24	自然史	対馬産クサガメ	1	鈴木大（東海大学）	（遺伝子解析による）進化的研究	R3.12.21-R4.12.15
25	自然史	ツチガエル液浸標本	59	島田知彦（愛知教育大学）	進化的研究のための遺伝子解析および形態計測	R3.12.23-R4.12.22
26	自然史	<i>Epimeria abyssalis</i> (Paratype)	1	Dr. Laure CORBARI (Muséum National d'Histoire naturelle)	端脚類 Epimeriidae 科の系統解析と生物地理学的検討	R4.2.14-R5.2.15
27	自然史	宗像市産哺乳類化石標本（コリフォドン）	14箱	宮田和周（福井県立恐竜博物館）	新生代における絶滅哺乳類相の研究	R4.3.20-R5.3.19

28	自然史	台湾産ハムシ類など(木元コレクション)	42	Chi-Feng Lee (台湾農業試験所)	ハムシ科の分類学的研究	R4.3.18-R5.3.18
29	自然史	ニシヤモリ(生体)	2	城野哲平(広島修道大学人間環境学部)	進化学的研究のための行動実験・観察	R4.3.25-R5.3.23
1	歴史	宮原遺跡出土土包丁	1	大阪府立弥生文化博物館	常設展示・収蔵展示に出品	R3.4.1～ R4.3.31
2	歴史	達磨大師像、華光菩薩像、韋駄天像(寄託)	3	九州国立博物館	文化交流展特集展示「明国からやってきた奇才仏師 范道生」に出品	R3.6.22～ R3.10.29
3	歴史	壁掛け電話機、黒電話、ブラウン管テレビ、ラジオカセットテーブ、湯たんぽ、ランプ	6	長崎街道木屋瀬宿記念館	企画展「夏休み企画 むかしのくらしと道具展」に出品	R3.7.17～ R3.8.29
4	歴史	貫川遺跡出土土包丁	1	島根県立古代出雲歴史博物館	秋季企画展「Come on 山陰弥生ライフー米作りはじめました」に出品	R3.8.16～ R3.12.10
5	歴史	暖簾「鶴の老舗小倉福田屋」、菓子型、八幡饅頭箱・菓子サンプル(包装)、菓子サンプル(八幡饅頭)、菓子サンプル(八幡饅頭・スライス)	5	北九州市産業経済局観光部観光課(小倉城天守閣)	企画展「KitaQ シュガーロード博覧会」に出品	R3.9.29～ R3.11.29
6	歴史	大友宗麟書状(3月15日付、「門司文書」、毛利元就書状(8月6日付、「門司文書」、毛利隆元安堵状(永禄5年6月12日付、「門司文書」、吉見正頼書状(2月21日付、「神代長野文書」、福原貞俊書状(6月18日付、「神代長野文書」、伝長野氏所用甲冑	6	下関市立歴史博物館	毛利元就没後450年記念特別展「毛利vs大友ー海峡の戦国史第2章」に出品	R3.8.23～ R3.11.3

## 2 1. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	自然史	ウミヘビ科魚類画像（当館研究報告掲載画像）	2	沖縄美ら島財団	貸出先の運営する水族館において、研究成果発信のために利用	R3.4.1
2	自然史	マウソニア・ラボカディ復元骨格画像	1	講談社	児童向け図鑑「MOVE 魚」電子書籍版に使用	R3.4.7
3	自然史	タヌキ剥製、アンモナイト（ベリスフィンクテス）、アンモナイト（デスマセララス）：落合氏撮影画像	3	テレビマンユニオン	NHK E テレ「ズームバック×オチアイ」内での使用	R3.4.16
4	自然史	ヒキダコウモリダコ、ハボロダイオウイカ化石標本 各 1 点（各標本につき 5 種類の画像を 1 点にまとめたもの）	2	中川町エコミュージアムセンター	白亜紀コレオイド類のレプリカの着色に使用	R3.4.20
5	自然史	フズリナ、ウミユリ（梅花石）、ディプロミスタス 各 1	3	野田勝利	高見自治区会広報誌「さくら便り」に掲載	R3.4.28
6	自然史	ディディモセラス・モロズミイ標本写真および復元図 各 1 点	2	誠文堂新光社	「子供の科学」2021 年 7 月号掲載予定	R3.5.13
7	自然史	シヨニサウルス頭骨復元模型画像	1	福井県立恐竜博物館	令和 3 年度特別展「海竜～恐竜時代の海の猛者たち～」での利用	R3.5.20
8	自然史	イナバテガネコナガ・ホロタイプ標本画像	1	鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館	山陰ジオパークのニュースレターへの掲載	R3.6.2
9	自然史	ナウマンゾウ展示状況画像	1	忠類ナウマン象記念館（幕別町）	忠類ナウマンゾウ全身復元骨格展示施設での展示状況の紹介	R3.6.11
10	自然史	ティラノサウルス骨格画像	1	ラムダブログダクション	「生きもののカタチ～続・波紋と螺旋とフィボナッチ～（発行：学研プラス）」への掲載	R3.6.21
11	自然史	研究報告掲載図（Iwata et al., 2019. Bull. KMNH, 17:57-65. (Fig.1)）	1	井田齋（北里大学海洋生命科学部・名誉教授）	投稿論文への掲載（投稿先：Frontiers in Marine Sciences）	R3.6.22
12	自然史	ネズミ類に食害されたカムリウミスズメの標本画像	1	千葉県立中央博物館	R3 夏の特別展「うみ鳥つづー海鳥とめぐる島の旅・半島の旅～」での使用	R3.6.25
13	自然史	直方隕石（レプリカ）画像	1	テレビ西日本	「もち浜ストア」番組中での使用	R3.6.29
14	自然史	松ヶ枝洞窟産サイ下顎骨レプリカ 2 点、同上顎臼歯 1 点	3	岡崎美彦	芦屋町郷土史研究会発行会誌への寄稿文に掲載	R3.6.28
15	自然史	ウシマンボウ展示標本画像	2	テレビ山口	「週末やまぐち家族」におけるウシマンボウに係るクイズで利用	R3.7.30
16	自然史	カンボデルシエロ隕石	1	ニュートンプレス	ニュートン（海外版および電子版）への再掲載	R3.8.24
17	自然史	ダンクルオステウス展示状況画像	1	ステップ・クリエイティブ	中部電力発行小学生向け会報誌「エレブック」への掲載	R3.8.25
18	自然史	月の石（当館 YouTube 内の動画）	1	兼本暖	月の紹介動画を作成するため	R3.9.10
19	自然史	ナウマンゾウ展示状況画像	1	アフロ	中学生を対象とした理科学習教材「完全攻略 中 1・2 の総復習（文芸社刊行予定）」への掲載	R3.9.17
20	自然史	シヨニサウルス頭骨復元模型動画	1	福井県立恐竜博物館	申請先の教育普及用映像プログラム「三畳紀～爬虫類の海 はじまりの時代～」での利用、撮影は先方	R3.9.18
21	自然史	石炭、ダンクルオステウス、ディノルニス、ヘリコプリアン画像、各 1 点	4	小学館	2012 年発売の「小学館の図鑑 NEO」を抜粋したミニ図鑑への再利用	R3.9.24
22	自然史	市内に生育する生物の画像	20	北九州市環境局	小学校低学年向けワークブック「みどりのノート」への利用	R3.10.22
23	自然史	ニセホバシライシ（屋外展示分）	1	グラフィック社	「植物の世界史（仮）」への掲載	R3.12.1
24	自然史	ニセホバシライシ（屋外展示分）・ナウマンゾウレプリカ 各 1 点	2	野田勝利	高見自治会の広報誌「さくら便り」への掲載	R3.12.8
25	自然史	ヒラキウス化石画像（福井県立恐竜博物館撮影分）	1	吉竹地区コミュニティ運営協議会（宗像市）	協議会設立 20 周年記念誌への掲載	R4.1.19
26	自然史	サメの歯化石 1 点、甲殻類化石 19 点	20	伊藤泰弘（九州大学総合博物館）	大牟田市石炭産業科学館における企画展示会「野田栄コレクション～大牟田産化石と九大標本でつむぐ大学博物館のいま～」での使用	R4.2.10
27	自然史	スピノサウルス全身復元骨格	1	ニシエ工芸	「恐竜えほん スピノサウルス」（金の星社、2018 刊）の電子版に使用。印刷版出版の際は利用を許可。	R4.3.15
28	自然史	アンプロケタス全身復元骨格	1	八木フィルム	ドキュメンタリー映画「大将は鯨の夢をみる」で使用	R4.3.29
1	歴史	杉田宇内書簡 昭和 31 年（1956）	1	久女・多佳子の会 久末隆彦	俳誌「青嶺」に掲載した記事を「随筆で迎える杉田久女」として冊子にするため	R3.5.12
2	歴史	小倉城復元模型	1	実教出版株式会社 代表取締役 小田良次	高等学校用検定教科書『精選日本史探求』・同デジタル教科書（紙の教科書と同一紙面・同一内容）に掲載するため	R3.6.17
3	歴史	豊国名所 ぎをん踊り	1	久女・多佳子の会 久末隆彦	俳誌「青嶺」に掲載した記事を「随筆で迎える杉田久女」として冊子にするため	R3.7.1
4	歴史	小倉織袴	1	株式会社 小倉織袴 渡部英子	一般社団法人日本繊維製品消費科学会会誌寄稿文「伝統と革新「小倉織」復活、そして世界へ」に掲載するため	R3.7.13
5	歴史	渋沢栄一書簡 北九州市立自然史・歴史博物館 外観写真 安川敬一郎肖像画	3	日本商工会議所 理事・事務局長 荒井恒一	「会議所ニュース」北九州市特集（8 月 21 日号）へ掲載するため	R3.8.3
6	歴史	西国内科医名所一覧（部分、「西国内科医名所一覧」文字記載部分） 小倉織はかま 山海愛度図会 はやく酔をさましたい	5	株式会社ゼンリンプリントテックス 代表取締役社長 西村仁哉	小倉情報誌「Cocura」創刊号掲載のため	R3.9.9
7	歴史	豊国名所	4	北九州市産業経済局 産	シュガーロードについての企画展	R3.9.17

		写真(福田屋店舗) 八幡饅頭包装紙 八幡饅頭 箱・菓子サンプル(包装)		業経済局長 北里勝利	「KitaQシュガーロード博覧会」にて使用するため	
8	歴史	小倉織袴	1	九州朝日放送 星野里徳	KBC「シリタカ」で、伝統工芸「小倉織デニム」のルーツとして掲載するため	R3.9.29
9	歴史	小倉織袴	1	岡谷市蚕糸博物館 館長 高林千幸	長野日報「シルク今昔ものがたり」コーナーにおいて、諏訪地方の製糸業の前身として位置付けられる小倉織の説明として、豊前小倉地域における江戸時代の小倉織を紹介するため	R3.10.28
10	歴史	牧山古墳群出土 蟠蛇紋鏡	1	幸文堂出版 代表 前野幸治	小石善三著『消えた秦王国』(自費出版)に掲載のため	R3.11.11
11	歴史	小倉藩土屋敷絵図	1	建設局河川部神嶽川旦過地区整備室 室長 船越英明	「旦過地区再整備」事業パンフレットへの掲載のため	R4.3.8
12	歴史	小倉藩土屋敷絵図(複製)	1	建設局河川部神嶽川旦過地区整備室 室長 船越英明	「旦過地区再整備」事業パンフレットへの掲載のため	R4.3.17
13	歴史	小笠原忠幹画像	1	一般社団法人 田川広域観光協会 理事長 菅原潔	田川広域観光協会誌本の『小笠原忠幹の亡骸移転』に使用するため	R4.3.28
14	歴史	小倉織袴	1	株式会社 VSQ 三根健司	『匠の蔵』番組内で築城則子氏を特集するにあたり、小倉織の歴史を紹介するため	R4.3.28

## 2 2. 研究業績

### (1) 普及課

#### 1) 論文など

Kobayashi, S., Panha, S., Seesamut, T., Nantarat, N., Likhitrakarn, N., Denda, T. and Izawa, M. 2021. First record of non-flying mammalian contributors to pollination in a tropical montane forest in Asia. *Ecology and Evolution* 11(24): 17604–17608. DOI: 10.1002/ece3.8361. (査読あり)

Kajiwara, Y., Kobayashi, S., Mochida, K., Fujimoto, S., Yamahira, K. and Izawa M. 2021. An attempt of the predation avoidance mechanism of Tsuda's giant stick insect, *Megacrania tsudai* (Phasmatodea: Phasmatidae), based on the spectral reflectance of the insect and a *Pandanus odoratissimus* leaf. *The Biological Magazine, Okinawa*, 59: 51–56. (査読あり)

Kobayashi, S., Takaoka, C., Tanimoto, H., Arimitsu, S. and Izawa M. (in press) Effect of spraying behavior and body size on predators of the big head stick insect *Megacrania tsudai* (Phasmatodea: Phasmatidae). *Entomological Science* (accepted on 28 March 2022). (査読あり)

小林 峻・金城道男・仲地学・伊澤雅子・中谷裕美子・長嶺 隆. (印刷中). 南大東島における外来種ニホンイタチ(哺乳綱: 食肉目: イタチ科)の分布と食性. *沖縄生物学会誌* (2022年2月9日受理) (査読あり)

中西 希・伊澤雅子. 印刷中. 西表島におけるヤイロチョウの初記録. *山階鳥類学雑誌*. (査読なし)

#### 2) 学会等講演

中西 希・伊澤雅子・小林 峻・中田勝士. 2021. 臼歯摩耗度を用いたケナガネズミの齢推定. *沖縄生物学会 58回大会*. (オンライン開催)

神谷 颯・水谷 晃・山本誉士・伊澤雅子・河野裕美. 2021. 西表島林縁域における非繁殖期のカムリワシの行動圏と林内採餌場環境. *沖縄生物学会第 58回大会*. 沖縄. (オンライン開催)

中西 希・伊澤雅子. 2021. イリオモテヤマネコにおける体骨格にみられる骨折痕による潜在的交通事故遭遇個体の割合. *日本哺乳類学会 2021 年度大会*. (オンライン開催)

伊澤雅子. 2021. 日本のヤマネコ島嶼個体群の生態. *日本哺乳類学会 2021 年度大会 自由集会「日本のネコ研究最前線」*. (オンライン開催)

安里 瞳・末吉康佑・中川雅允・菅原 涼・角田羊平・河内紀浩・小林 峻・伊澤雅子・戸田 守. 2021. 沖縄島における外来種タイワンスジオの食性. *日本爬虫両棲類学会の第 60回大会*. (オンライン開催)

#### 3) 書籍・普及書など

伊澤雅子. 2022. 日本に生息するヤマネコ-小島嶼に生きる肉食獣. *milsil* 第 15 巻 2 号. pp. 15–17. 国立科学博物館.

#### 4) 外部資金獲得状況

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (公益財団法人自然保護助成金). 海洋島大東諸島の固有種とそれを支えるピロウ林の現状と保全に関する研究—その後の経緯と新しい外来種の影響. 研究代表者 伊澤雅子 (継続)

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (公益財団法人自然保護助成金). 対馬におけるニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究代表者: 中西 希. 研究分担者: 伊澤雅子. 2020-2022 年度.

## (2) 自然史課

### 1) 論文など

- Endo, S., Hibino, Y. and Mochioka, N. 2022. Identification of first recorded ophichthid larvae of *Ophichthus celebicus* and *O. macrochir* (Anguilliformes; Ophichthidae) from Japan, based on morphometric and genetic evidence. Ichthyological Research. 早期公開, DOI: 10.1007/s10228-021-00848-9. (査読あり)
- 江頭幸士郎. 2021. 福岡県で捕獲されたタイワンスジオ (*Elaphe taeniura friesei*) およびシロアゴガエル (*Polypedates leucomystax*) について. 爬虫両棲類学会報, 2021(1), 59–62. (査読なし)
- 江頭幸士郎・中野紘一. 2021. 九州島北端部の止水性サンショウウオ属の遺伝的特性について. 爬虫両棲類学会報, 2021(2), 139–144. (査読なし)
- Fujishima, K., Sasai, T., Hibino, Y. and Nishizawa, H. 2021. Morphology, diet, and reproduction of coastal *Hydrophis* Sea Snakes (Elapidae: Hydrophiinae) at their northern distribution limit. Zoological Science, 38 (5). 早期公開, DOI: 10.2108/zs210010 (査読あり)
- Fukuyama, I., Matsui, M., Eto, K., Hossman, M. Y. and Nishikawa, K. 2021. Discovery of a deeply divergent and highly endemic frog lineage from Borneo: A taxonomic revision of *Kalophrynus nubicola* Dring, 1983 with descriptions of two new species (Amphibia: Anura: Microhylidae). Zoologischer Anzeiger, 293, 326–343. (査読あり)
- Haramura, T., Eto, K., Crossland, M. R., Nishikawa, K. and Shine, R. 2022. Competition between the tadpoles of Japanese toads versus frogs. Scientific Reports, 12, 1627. (査読あり)
- 日比野友亮・緒方悠輝也・松尾 怜・大衛亮正・小原直人・栗原 巧・齋木悠亮. 2022. 大淀川水系におけるコウライオヤニラミの分布拡大と推測される在来魚類に与える影響. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 16, 18–24. (査読あり)
- Kakizaki, Y., Kano, A., Ota, Y., Nakada, R., Nagaishi, K. and Kashiwagi, K. 2021. Pennsylvanian paleoclimatic record in rhythmites developed on an oceanic island of low-latitude Panthalassa. Sedimentary Geology 424 (2021), Article 105992. (査読あり)
- 上手雄貴・上手奈美・蓑島悠介. 2021. 岐阜県におけるコヒラタガムシの初記録. さやばねニューシリーズ, 44: 71–72 (査読なし)
- Kanno, S., Tokumaru, S., Nakagaki, S., Nakajima, Y., Misaki, A., Hikida, Y. and Sato, T. 2022. Santonian–Campanian neoselachian faunas of the Upper Cretaceous Yezo Group in Nakagawa Town, Hokkaido, Japan. Cretaceous Research, 133, 105139. (査読あり)
- 是枝伶旺・日比野友亮・本村浩之. 2021. 鹿児島湾から得られた九州初記録のゴマホタテウミヘビ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14, 5–9. (査読あり)
- Kunishima, T., Maeda, K., Inui, R. and Hibino, Y. 2021. First Japanese record of *Muraenichthys gymnopterus* (Anguilliformes, Ophichthidae) from Ishigaki-jima Island, Ryukyu Archipelago. Species Diversity, 26 (2), 343–349. (査読あり)
- Mai, Z., Hu, J., Minoshima, Y. N., Jia, F.-L. and Fikáček, M., 2022. Review of *Dactylosternum* Wollaston, 1854 from China and Japan (Coleoptera, Hydrophilidae, Sphaeridiinae). Zootaxa, 5091 (2), 269–300. (査読あり)
- 真鍋 徹・中西 希・太田泰弘. 2022. 新型コロナウイルス感染症未終息下での特別展における新たに導入した展示手法と来館者の反応. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史), 20, 5–15. (査読あり)
- Minoshima, Y. N., Liu, H.-C. and Fikáček, M. 2021. Description of the larva of a hygropetric *Agraphydrus* (Coleoptera, Hydrophilidae, Acidocerinae). Elytra, New Series, 11 (Supplement), 95–105. (査読あり)
- Misaki, A. and Tsujino, Y. 2021. A new species of the heteromorph ammonoid *Didymoceras* from the Upper Cretaceous Izumi Group in Shikoku, southwestern Japan, and its evolutionary implications. Paleontological Research, 25, 127–144. (査読あり)
- 御前明洋・村宮悠介. 2022. 国内の上部白亜系におけるアンモノイドを含むコンクリーションの産状. 地質



学雑誌, 128, 27–28. (査読あり)

Murai, M., Henmi, Y., Matsumasa, M., Backwell, P. R. Y. and Takeshita, F. 2022. Attraction waves of male fiddler crabs: a visual display designed for efficacy. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*. 546, 151665. (査読あり)

武藤 滉・日比野友亮・星野浩一・橋本 颯. 2021. 日本海および東シナ海から得られたマメウツボ *Gymnothorax reevesii* の日本における確実な記録. *魚類学雑誌*. 早期公開, DOI: 10.11369/jji.21-011. (査読あり)

中西 希・伊澤雅子. 印刷中. 西表島におけるヤイロチョウの初記録. *山階鳥類学雑誌*. (査読なし)

中島田正希・日比野友亮. 2022. 福岡県玄界灘より得られたスミツキザメおよびハナザメ (メジロザメ科). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 18: 11–18. (査読あり)

大戸夢木・坂上 嶺・日比野友亮・松重一輝・内田和男・望岡典隆. 2022. ニホンウナギの各生活史段階における石倉カゴの浮石間隙構造への選好性：汽水域のハビタットの効果的な復元に向けて. *日本水産学会誌*, 受理済み. (査読あり)

Okamoto, T., Kuriyama, T., Eto, K. and Hasegawa, M. 2021. A Preliminary Study of the Morphological and Ecological Characteristics of *Plestiodon japonicus* (Scincidae, Squamata) on the Danjo Islands, Western Japan. *Current Herpetology*, 40 (2), 182–189. (査読あり)

杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・野井英明・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. 2022. 独自活動と博物館への協力 (活動実績：2021 年度). *ジオ&バイオ研究会報告書*, ジオ&バイオ研究会, 第 11 号, 3–41. (査読なし)

## 【学会賞】

竹下文雄. 2021. 日本動物行動学会賞「ハクセンシオマネキのメスによる配偶者選択と関連する社会性の研究」※区分 (1) 動物の行動に関する新たな現象の発見. 2021 年日本動物行動学会.

## 2) 学会等講演

遠藤詢介・日比野友亮・望岡典隆. 2021. 北西太平洋におけるウミヘビ科ミミズアナゴ属 3 種の葉形仔魚の形態と分布. 2021 年度日本魚類学会年会. (オンライン開催)

江頭幸士郎・松井正文. 2021. タゴガエルの原記載に用いられた各標本の計量形態形質について. 日本爬虫両棲類学会第 60 回大会. (オンライン開催)

江頭幸士郎・中野紘一・川原二郎. 2022. 九州北端部の止水性サンショウウオの遺伝的特徴について. 九州両生爬虫類研究会第 12 回大会. (オンライン開催)

福山伊吹・児玉知理・江頭幸士郎・Yazid Hossman. 2021. ミズヘビ科 *Miraria* 属の系統的位置について. 日本爬虫両棲類学会第 60 回大会. (オンライン開催)

小林大純・日比野友亮. 2021. 九州地方におけるアブラハヤ属魚類の多様性. 2021 年度日本魚類学会年会. (オンライン開催) \*優秀発表賞受賞

蓑島悠介. 2021. 北九州市立自然史・歴史博物館の甲虫標本. 日本甲虫学会第 11 回大会, 北海道大学. (オンライン開催)

蓑島悠介. 2021. ガムシ科を例とした幼虫研究のテクニック. 日本甲虫学会第 11 回大会, 北海道大学. (オンライン開催)

蓑島悠介・上手雄貴・Fikáček, M. 2021. 琉球列島のヒメマルガムシ属 (鞘翅目・ガムシ科). 日本昆虫学会第 81 回大会, 法政大学. (オンライン開催)

御前明洋・村宮悠介. 2021. アンモノイドを含む石灰質コンクリーションの産状. 日本地質学会第 128 年学術大会, シンポジウム「球状コンクリーションの科学—理解と応用—」. 名古屋大学. (オンライン開催)

中原 亨・宮原克久・森本嘉人・長井和哉. 2021. 西日本で目撃例の増えているシログシラはどこからや

- ってきたのか？. バードリサーチ鳥類学大会 2021. (オンライン開催)
- 中原 亨・伊関文隆・中山文仁・山口典之. 2021. 西日本で越冬するノスリの生息地選択. 日本生態学会第 68 回全国大会 岡山. (オンライン開催)
- 中原 亨・伊関文隆・吉岡俊朗・長井和哉・雀ヶ野孝・大槻恒介・中山文仁・山口典之. 2021. 「2 羽どまり」の謎：九州で越冬する渡り性猛禽類ノスリの縄張り共有行動. 日本鳥学会 2021 年度大会. (オンライン開催)
- 中原 亨・伊関文隆・中山文仁・山口典之. 2022. 「九州で越冬する猛禽類ノスリの生息適地の変遷」 日本生態学会第 69 回全国大会. 福岡. (オンライン開催)
- 中西 希・伊澤雅子・小林 峻・中田勝士. 2021. 臼歯摩耗度を用いたケナガネズミの齢推定. 沖縄生物学会 58 回大会. (オンライン開催).
- 中西 希・伊澤雅子. 2021. イリオモテヤマネコにおける体骨格にみられる骨折痕による潜在的交通事故遭遇個体の割合. 日本哺乳類学会 2021 年度大会. (オンライン開催).
- 竹下文雄・西海望. 2021. ヒメアシハラガニ-ハクセンシオマネキの捕食者-被食者間相互作用：捕食者・被食者の駆け引きと結末に影響する要因. 2021 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同学会. 鹿児島大学. (オンライン開催)
- 竹下文雄. 2021. 日本動物行動学会賞受賞講演 (招待公演) . 「ハクセンシオマネキのメスによる配偶者選択と関連する社会性の研究 (※区分 (1) 動物の行動に関する新たな現象の発見) 」. 2021 年日本動物行動学会. (オンライン開催)
- 田上 響, 河部壮一郎, 大橋智之. 2020. 漸進統芦屋層群産カツオドリ目上嘴化石における嘴鞘の分布. 日本地質学会西日本支部令和 3 年度総会・第 172 回例会. 広島大学. (オンライン開催)
- 日比野友亮. 2021. 台湾から得られたウミヘビ属の 5 未記載種 (ウナギ目ウミヘビ科) . 2021 年度日本魚類学会年会. (オンライン開催)
- 大戸夢木・坂上 嶺・日比野友亮・松重一輝・内田和男・望岡典隆. 2022. 石倉カゴの効果検証 9 : ニホンウナギの浮石間構造への選好性. 令和 4 年度日本水産学会春季大会. (オンライン開催)
- 大戸夢木・坂上 嶺・松重一輝・日比野友亮・望岡典隆. 2022. 汽水域におけるニホンウナギの定着と栄養状態の改善を促す間隙構造. 令和 4 年度日本水産学会春季大会. (オンライン開催)
- 安武由矢・松重一輝・坂上 嶺・日比野友亮・田中智一郎・望岡典隆. 2021. 河川淡水域で追跡された銀ウナギによる降河行動の 1 例. 令和 3 年度日本水産学会秋季大会. 北海道大学. (中止, 発表みなし)

### 3) 書籍・普及書など

- 日比野友亮. 2021. 広渡川のえびまき. ぎよぶる, 10, 100-101. 北九州・魚部.
- 真鍋 徹. 2022. 水辺景観の機能と人との関わり. 日本景観生態学会 (編) . 景観生態学. pp. 106-109. 共立出版. 東京.
- 真鍋 徹. 2022. ため池のハビタット機能と保全・管理. 日本景観生態学会 (編) . 景観生態学. pp. 115-117. 共立出版. 東京.
- 蓑島悠介. 2021. がむしといふいきもの 証拠を残そう!. ぎよぶる, 10, 94-95. 北九州・魚部.
- 中原 亨. 2021. 博物館発! 鳥のお宝ツアー #02 | 北九州市立いのちのたび博物館~新・旧海鳥標本のよもやま話~. 月刊 BIRDER 5 月号. pp. 66-67. 文一総合出版.
- 中西 希. 2021. 博物館で野生哺乳類を保存する. すづくり, 50(3), 10-11. 広島市安佐動物公園.
- 中西 希. 2021. 書評「イルカの解剖学-身体構造と機能の理解 (山田 格監訳)」 pp. 96-97. 哺乳類科学, 62(1), 96-97.

#### 4) 外部資金獲得状況

##### 【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金】

国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））. ヒキガエル利用からホタル利用へ：毒源を変化させたヘビ類の進化過程の探求. 研究分担者：江頭幸士郎（研究代表者：森 哲）. 2018-2022年.

基盤研究（B）. 自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築. 研究分担者：真鍋 徹（研究代表者：三橋弘宗）. 2019-2023年度.

基盤研究（B）. ヘビ類の餌毒再利用による某業メカニズムの多様化：外敵刺激依存から自発的攻防へ. 研究分担者：江頭幸士郎（研究代表者：森 哲）. 2021-2024年度.

基盤研究（C）. 機械学習で読み解く蛇紋岩メラングジュ形成の過程と影響. 研究代表者：森 康. 2020-2022年度.

基盤研究（C）. 付着・穿孔生物化石から絶滅軟体動物の古生態を探る. 研究代表者：御前明洋. 2019-2022年度.

基盤研究（C）. 比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元. 研究分担者：大橋智之（研究代表者：田上 響）. 2018-2021年度.

基盤研究（C）. ライバル雄の妨害がドライブするシオマネキ類の配偶者選択におけるシグナル系の複雑化. 研究代表者：竹下文雄. 2019-2022年度.

若手研究. 南シナ海西部インドネシア半島縁辺域における熱帯～温帯性魚類の分布障壁の解明. 研究代表者：日比野友亮. 2020-2023年度.

若手研究. 高い生物多様性を内包する里山環境の変遷を追う：ノスリを用いた検証と予測. 研究代表者：中原 亨. 2019-2021年度.

研究活動スタート事業. 固有性喪失か多様性増大か？島と本土の頻繁な接続に伴う両生類の変遷過程を探る. 研究代表者：江頭幸士郎. 2021-2022年度.

##### 【その他の外部資金】

東京大学地震研究所特定共同研究（B）. 機械学習で推し進めるデータ駆動型地球科学の新展開. 研究分担者：森 康（研究代表者：上木賢太）. 2021年度.

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（公益財団法人自然保護助成金）. 対馬におけるニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究代表者：中西 希. 研究分担者：伊澤雅子. 2020-2022年度.

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（公益財団法人自然保護助成金）. 希少海鳥カンムリウミスズメの保護増殖に関する研究. 研究分担者：中原 亨（研究代表者：山口典之）. 2021-2023年度.

2021年度ニッセイ財団環境問題研究助成（若手研究・奨励研究）. 繁殖期の希少海鳥2種の行動に基づいた洋上風発建設リスクの評価. 研究代表者：中原 亨. 2021-2022年度.

公益信託乾太助動物科学研究助成基金. 生活史全体を考慮した保全状況評価の実施を見据えたヒメクロウミツバメの移動追跡. 研究代表者：中原 亨. 2021-2023年度.

### (3) 歴史課

#### 1) 論文・著書など (五十音順)

##### 【査読あり・学術書・論文】

佐藤凌成. 2022. 「十六世紀後半の大名領国周縁における国人の動向—豊前長野氏を事例に—」. 『九州史学』 pp. 41–69.

##### 【その他】

日比野利信. 2022. 研究ノート「『小倉城と城下町』と刊行後の課題」. 『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告』B類歴史 19. 北九州市立自然史・歴史博物館, pp. 1–7.

守友 隆. 2022. 「小倉藩小笠原家と狐・稲荷社」. 『朱』 65, 伏見稲荷大社, pp. 217–230.

#### 2) 資料紹介・書評など (五十音順)

宮元香織. 2022. 資料紹介「四環鈴について」. 『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告』B類歴史 19. 北九州市立自然史・歴史博物館, pp. 9–16.

守友 隆. 2022. 資料紹介「松前藩主松前氏宛て徳川將軍朱印状の紹介」. 『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告』B類歴史 19. 北九州市立自然史・歴史博物館, pp. 18 (35) –52 (1) .

#### 3) 書籍・普及書など (五十音順)

上野晶子. 2021. 「西洋料理」「厚生新編」「マカゼイン」「蛮書和解御用」. 青木歳幸ほか編『洋学史研究事典』. 思文閣出版. pp. 92, 145–146, 147, 167.

北九州市立自然史・歴史博物館、釜石市世界遺産課、「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議 編、2021. 『鉄の都のものがたり 釜石と八幡』(特別展展示解説パンフレット) . 「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議. 全 24p.

佐藤凌成. (執筆) pp. 23.

日比野利信. (編集・執筆) pp. 1, 8–9, 13, 15, 16–17, 19–21, 24.

北九州市立自然史・歴史博物館 編. 2021. 『歴史友の会通信』北九州市立自然史・歴史博物館. 全 20p.

上野晶子「鉄の都八幡の名菓 鶴屋「八幡饅頭」」 pp. 5–6.

佐藤凌成「ご挨拶と研究紹介」 pp. 13–14.

富岡優子「日本最古の藕糸織」 pp. 7–8

中西義昌「遺跡を知る・学ぶ・考える—歴史探訪講座から—」 pp. 11–12.

馬場由行「小倉にみる同業者町について」 pp. 15–16.

日比野利信「〈近代〉はいつ、どのように〈始まる〉のか」 pp. 2–3.

宮元香織「尿瓶(しびん)のはなし」 pp. 4–5.

守友 隆「北条義時と北九州」 pp. 9–10.

東田ミュージアムパーク実行委員会 編. 2021. 『北九州・産業都市の軌跡』東田ミュージアムパーク実行委員会. 全 58p.

上野晶子 (執筆). pp. 55–58.

中西義昌 (執筆). pp. 7–8, 17–20.

日比野利信 (編集・執筆). pp. 1–2, 9–16, 21–36.

日比野利信・中西義昌 (執筆). pp. 5–6

日比野利信・馬場由行 (執筆). pp. 3–4

日比野利信. 2021. 「鉄の都のものがたり—釜石と八幡」. 『北九州文化』 39. 北九州文化連盟, pp. 80–81.

#### 4) 学会等講演・報告

なし

## 5) 外部資金獲得状況

### 【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金】

基盤研究 (C) 石炭資源の発見と近代政治システムの形成 研究代表者：日比野利信 2019-22 年度.

基盤研究 (C) 日本古代菓子の実態解明と再現活用に関する研究—東アジアの食膳研究その 1— 研究分担者：宮元香織 (研究代表者：前川佳代) 2019-21 年度.

基盤研究 (C) 小倉織の基礎的研究 研究代表者：上野晶子, 研究分担者：日比野利信 2020-22 年度

基盤研究 (C) 藕糸織の基礎的研究—非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に— 研究代表者：富岡優子 2020-22 年度

基盤研究 (C) 幕末維新期の日朝間における情報流通とネットワーク形成—対馬宗家文書を中心に— 研究代表者：守友隆 2020-22 年度.

基盤研究 (C) 戦国大名領国に関する文献史学・考古学・城郭史の総合的研究—豊後大友氏の検討から— 研究代表者：中西義昌 202-23 年度.

若手研究 (B) 九州を中心とする仏涅槃図の基礎的研究 研究代表者：富岡優子 2014-22 年度.

### 【その他】

(公財) カメイ社会教育振興財団 博物館学芸員等の内外研修に対する助成 日本・韓国におけるトイレ状遺構の調査 研究代表者：宮元香織 2020-21 年度.

(公財) 鍋島報効会 研究助成 東肥前から見た戦国期筑紫氏の研究—文献・城郭史研究の観点から 研究代表者：中西義昌 2021 年度.

## 23. 博物館刊行物

### (1) 研究報告 A 類 (自然史) 第 20 号 (2022 年 3 月 31 日発行)

J-Stage にてフリーアクセスで公開中 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kmnh/>)

金光浩伸・田中孝治・末次健司. 福岡県におけるシロテンマの確認記録について. p. 1-4. [Records of *Gastrodia elata* var. *pallens* (Orchidaceae) in Fukuoka Prefecture, Japan]

真鍋 徹・中西 希・太田泰弘. 新型コロナウイルス感染症未終息下での特別展における新たに導入した展示手法と来館者の反応. p. 5-15. [Newly adopted exhibition method and visitor's reactions in the special exhibition under the COVID-19]

### (2) 研究報告 B 類 歴史 第 19 号 (2022 年 3 月 31 日発行)

【研究ノート (小倉城と城下町の研究)】

日比野利信. 『小倉城と城下町』と刊行後の課題. p. 1-7.

【資料紹介】

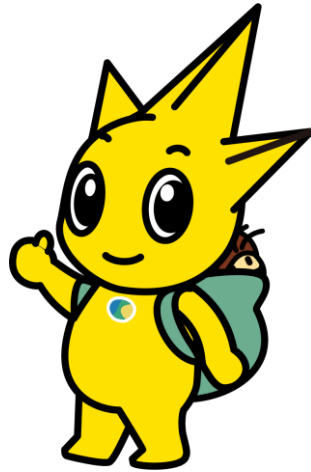
宮元 香織. 四環鈴について. p. 8-16.

守友 隆. 松前藩主松前氏宛て徳川將軍朱印状の紹介. p. 18-52.

### (3) 図録

『北九州・産業都市の軌跡 展示解説シート』(2021 年 4 月 29 日発行) 58 ページ

『鉄の都のものがたり』(2021 年 10 月 15 日発行) 24 ページ



博物館公式キャラクター！「いのたん」

年 報

令和3年度

---

令和4年8月10日 発行

編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館

北九州市八幡東区東田 2-4-1

TEL 093-681-1011

FAX 093-661-7503

<http://www.kmnh.jp>



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY